

採用に関するお問い合わせ

総務省大臣官房秘書課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2

中央合同庁舎第2号館7階

(代表)TEL.03-5253-5111

(直通)TEL.03-5253-5076



総務省HP採用情報

https://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



X(旧Twitter) 総務省一般職採用アカウント

(説明会等の採用情報を随時更新中)

https://x.com/MIC_recruit



先輩からのメッセージ

総務省

2026年度

一般職 / 入省案内



くらしの中に総務省

総務省は、日本全国にわたる基本的な仕組みから、
国民の経済・社会活動に関わる諸制度を担う、
国家の根本を支えている省庁です。
その所掌範囲は、国の基本的な行政制度の管理・運営、
地方自治の企画や消防・救急行政、
情報通信技術（ICT）を活用した成長戦略の実現と、多岐にわたっています。
少子・高齢化の進展、地域間格差の拡大、国際競争力の強化など、
我が国は多くの課題に直面しています。
今後も私たちは、「総て」を「務める」省庁として、
総合性を生かしながら、我が国の行政を担っていきます。



CONTENTS

総務省のミッション	2
総務省の組織	4
From 本省	
地方自治・消防	6
情報通信（ICT）	12
行政管理・評価・統計	18
From 若手職員	
若手職員対談	24
若手職員の日	25
若手職員アンケート	26
From 地方支分部局	28
From 出向者・海外	30
キャリアパス・研修	36
From ベテラン職員	37
働き方改革・WLB	40
Q&A	42
From 採用チーム	43



国家行政のマネジメントと
その改革
国家行政をマネジメントする機関にしか、
実現できない改革がある

「地方分権時代」への
新たな展開
地域のあり方こそ日本の本質、
未来の日本をかたちづくる

総務省の組織

総務大臣

総務副大臣(2名)
総務大臣政務官(3名)
総務大臣補佐官

総務事務次官
総務審議官(3名)

施設等機関

自治大学校
情報通信政策研究所
統計研究研修所

特別の機関

中央選挙管理会
政治資金適正化委員会
[自治紛争処理委員]
※事件ごとに総務大臣が任命

審議会等

地方財政審議会
行政不服審議会
情報公開・個人情報保護審議会
官民競争入札等監視委員会
独立行政法人評価制度委員会
国地方係争処理委員会
電気通信紛争処理委員会
電波監理審議会
統計委員会
恩給審議会
政策評価審議会
情報通信審議会
情報通信行政・郵政行政審議会
国立研究開発法人審議会

地方支分部局

管区行政評価局(7)
四国行政評価支局
沖縄行政評価事務所
総合通信局(10)
沖縄総合通信事務所

大臣官房	秘書課 総務課 会計課 企画課 政策評価広報課
行政管理局	企画調整課 調査法制課 管理官
行政評価局	総務課 企画課 政策評価課 行政相談企画課 評価監視官 行政相談管理官
自治行政局	行政課 住民制度課 市町村課 地域力創造グループ 参事官 地域政策課 地域自立応援課 公務員部 選挙部 公務員課 選挙課 福利課 管理課 政治資金課
自治財政局	財政課 調整課 交付税課 地方債課 公営企業課 財務調査課
自治税務局	企画課 都道府県税課 市町村税課 固定資産税課
国際戦略局	国際戦略課 技術政策課 通信規格課 宇宙通信政策課 国際展開課 国際経済課 国際協力課 参事官
情報流通 行政局	総務課 情報通信政策課 情報流通振興課 情報通信作品振興課 地域通信振興課 放送政策課 放送技術課 放送業務課 放送施設整備促進課 参事官 郵政行政部 企画課 郵便課 郵便局活用課
総合通信 基盤局	総務課 電気通信事業部 事業政策課 料金サービス課 データ通信課 電気通信技術システム課 安全・信頼性対策課 基盤整備促進課 利用環境課 電波部 電波政策課 基幹衛星移動通信課 移動通信課 電波環境課
統計局	総務課 事業所情報管理課 統計情報利用推進課 統計情報システム管理官 統計調査部 調査企画課 国勢統計課 経済統計課 消費統計課
政策統括官	統計企画管理官 統計審査官 統計調整官 国際統計管理官 恩給管理官
サイバー セキュリティ 統括官	参事官
公害等 調整委員会	総務課 審査官
消防庁	総務課 消防・救急課 予防課 国民保護・防災部 防災課 参事官 施設等機関 消防大学校 消防審議会 審議会等

MESSAGE

地方自治 消防

自治行政局選挙部選挙課

若山 優希 WAKAYAMA YUKI

令和2年入省



日々の暮らしの中に

What I Do

私たち一人ひとりのための選挙

私は現在、選挙に関する仕事をしています。全国を見渡せば、いまもどこかで選挙に関する様々なことが行われており、私たちの生活において切り離せない存在です。誰にでも身近なものだからこそ、疑問に感じたり、知りたいと思うものです。そうした選挙にまつわるハテナを紐解き、どのような制度になっているかを正しく伝えることが私たちの仕事です。

選挙が公平・公正に執り行われるためには、まず、正しい知識を持つことが重要です。有権者、候補者、選挙管理委員会など、立場はそれぞれであり、視点も異なってきます。現行の選挙制度や規則等について理解を深め、それぞれの立場に寄り添った説明ができるよう努めています。

選挙が行われている限り、私たちの仕事が尽きることはありません。責任重大ではありますが、とてもやりがいのある仕事だと感じています。



in選挙啓発キャラめいすいくん

Welcome Message

総務省で経験できること

総務省では、様々なフィールドでの勤務を経験することができます。特に、若いうちから本省外で勤務する機会を与えられ、実際に地方自治体の職員として経験を積むこともできます。地方自治を考える上で、現場の感覚を養うことはとても重要であり、視野を広げることができる貴重な機会です。

私自身も、2年間岡山県にお世話になりました。県の皆様に支えられ、とても充実した出向生活を送ることができました。そうしたご縁はなくなることはなく、それぞれの立場や環境が変わっても、顔を合わせれば当時の記憶が鮮明によみがえり、いつまでもあの頃のように語り合ってしまうものです。こうしたご縁は、就職するまで地元から一度も出たことのない私にとって、出向という経験がなければ出会えなかったかもしれない方々との大切なものです。様々な出会いに恵まれ、つながりができることも、総務省ならではの魅力だと思います。



岡山県赴任時に同僚と

Q

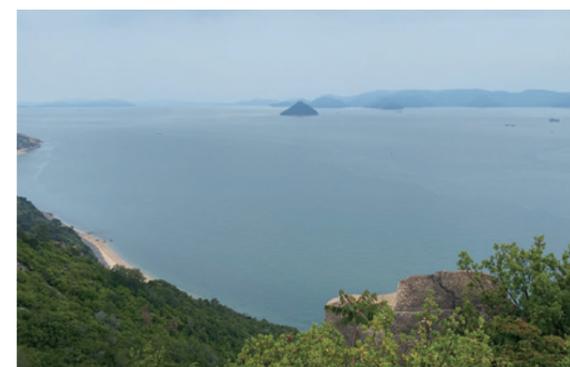
総務省を志望した理由は何ですか？

大学在学中、ゼミ活動の一環で地域住民の趣味や勉学への興味を広げる「寺子屋」の運営をしていた経験から、地域に寄り添った仕事をしたいと考えていました。当初は地元自治体での勤務を思い描いていましたが、様々な業種を調べてみると、国、地方どちらの立場からも地域に貢献できる省庁があるとのことで、総務省の採用説明会に参加してみました。何気なく参加した説明会でしたが、先輩職員方の地方に対する熱い思いや出向先での数々のご経験に感銘を受け、総務省を後にする頃には「私もこんな経験がしてみたい！」という気持ちが強くなっていました。

気づけば入省6年目、地方出向の経験は、先輩職員方の話のとおりかけがえのないものとなり、今の自分を支えてくれています。

とある1週間

- 月 各地の選挙管理委員会での実態調査に向けて、必要書類の準備をします。
- 火 事前に提出してもらった書類をもとに、同行職員と打合せをします。
- 水 いよいよ実態調査開始！まずは都道府県の選挙管理委員会にヒアリングをします。
- 木 実態調査2日目。市町の選挙管理委員会にヒアリングをします。
- 金 調査内容をまとめ、報告します。現場の声を聞くことができ、とても貴重な経験になりました。



出向先のお気に入りの場所

CAREER PATH

大臣官房時代

1年目

令和2年4月～令和3年3月
大臣官房秘書課

入省1年目、職員給与に関する部署に配属されました。右も左も分からず、戸惑うことばかりでしたが、上司や同僚に支えられ、大きく成長できた1年だったと振り返ります。

総務省の職員は省外への異動も多く、給与調整は大変だと感じていましたが、歴代の先輩方が残してくれた様々なツールを活用し、少しずつではありますが、業務を進めていくことができました。社会人の基本である“報連相”や、自分のことだけでなく、後任や同僚へ経験を引継いでいくことの大切さを身をもって実感できた1年でもあります。

自治税務局時代

2年目

令和3年4月～令和4年3月
自治税務局固定資産税課

入省2年目、固定資産税に関する部署に配属されました。税制度は複雑で、法律や規則を正しく理解し、事例ごとに適切に当てはめていく過程が難しいと感じることもありましたが、とてもやりがいのある業務だったと振り返ります。

主に船舶の評価（取得からの年数等を考慮し、資産の価値を算出すること）を任せてもらいましたが、外部の担当者とのやりとりも多く、身内に相談するのは違った緊張感がありました。また、法律等について、誰にでも分かりやすい説明を心がける中で、伝え方の大切さを学んだ1年でもあります。

岡山県赴任時代

3年目

令和4年4月～令和6年3月
岡山県県民生活部市町村課

入省3年目、岡山県庁において、県内市町村との連携・調整を行う部署に配属されました。県内市町村と連携しながら様々な業務を行い、時には現地に赴き、実際に自分の目で見て、現場の声を聞くことができました。また、部署には県職員のほかに市町村からの派遣職員も多くいらっしゃるので、様々な視点からのお話を伺うこともできます。

県民の声を聞くことも県職員の重要な仕事であり、日々、様々なお問い合わせを頂戴しました。配属当初、土地勘のない県内の道案内を頼まれ大苦戦！業務はもちろん、その地を知ることも大切な仕事です。

MESSAGE

地方自治 消防

自治財政局交付税課検査係長

長尾 晴基

NAGAO HARUKI

平成31年入省



地方に寄り添い、地方を支える

What I Do

地方財政を支える仕事

私は、自治財政局交付税課に所属し、地方交付税のうち普通交付税に関する制度の企画・立案や地方自治体に交付される普通交付税の算定を行っています。

地方自治体は警察、消防、教育、子育て支援、高齢者福祉など様々な分野の行政サービスを提供しています。しかし、多くの自治体では、行政サービスの財源を自らの税収で賄っていないのが現状です。そのような中で、すべての自治体が行政サービスの質を維持できるよう、財源を保障するためのものが「地方交付税」です。

地方交付税は、自治体の財政運営にとって、大変重要な役割を果たしています。そのため責任感もありますが、その分やりがいのある仕事だと感じています。

このように、総務省の仕事は、地方交付税制度などを通じて、全国の自治体やそこで生活する住民の方々の暮らしを支えることができます。



交付税課での業務の様子

Welcome Message

多様な考え方に触れ、自己成長できる場所

みなさん、総務省についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。私自身、総務省に入省する前は、お堅そうな職場というイメージを持っていました。実際に入省してみると、もちろん業務中はどの職員も真剣そのものですが、定時を過ぎると同僚や同期と飲み会を開いたり、休日には一緒に遊びに出かけたりと、和やかな雰囲気の職場で、入省前に抱いていたイメージは良い意味で裏切られました。また、業務で行き詰まった時には、経験豊富な上司からアドバイスをいただくことがあり、相談環境が整っている風通しの良い職場です。

他にも、総務省では全国の都道府県や市町村から派遣されている職員の方々も一緒に働いています。年齢も出身地も価値観も様々な方々と協力しながら業務を進めるため、多くの刺激をもらい、日々新しい発見があります。このような経験は、総務省でなければ得られなかったと感じています。



仕事終わりに交付税課全員で飲み会を開きました

Q

自治体での赴任経験が総務省の業務に活かしたことはありますか？

総務省は、地方自治、地方財政、地方税制など「地方」のための制度を所管していますが、実際に制度を運用するのは自治体の職員の方々です。総務省では、地方の現場の視点・感覚を学ぶという目的で、自治体へ赴任する機会があります。

私は、北海道庁へ赴任していましたが、そこで自治体職員の立場から見た国の制度を学ぶとともに、自治体の職員や住民の方々とのコミュニケーションを通して、自治体の実情を肌で感じることができました。この経験は、現在の部署で制度の創設・変更を検討する上で活かしています。

また、地方赴任時代に築いた人間関係は一生ものになります。今でも当時お世話になった方や仲良くなった方と定期的に連絡をとっており、自治体の現状や国の制度に関する意見など聞き、業務を進める上での参考にしていきます。

とある1週間

- 月 自治体からの要望を踏まえた、財政支援の創設に向けた打合せ。今後の進め方などについて話し合います。
- 火 自治体の担当者へヒアリング。各自治体がどのような課題を抱えているか、詳細に聞き取ります。
- 水 地方財政状況調査などを用いて、自治体の財政状況を客観的に分析します。
- 木 自治体へのヒアリングや客観的な分析を踏まえて、資料を作成します。
- 金 作成した資料をもとに上司に相談。自分では気づけない点を助言いただき、資料をブラッシュアップします。



週末は家族と過ごします。この時間が日々の原動力となっています。

CAREER PATH

大臣官房時代

1年目

平成31年4月～令和2年3月

大臣官房秘書課

入省して初めて配属された秘書課では、業務説明会や官庁訪問の運営などの採用活動、職員の人事記録などの内部資料の管理、職員を対象とした研修の運営といった総務省の人事に関する業務を担当しました。

社会人1年目で当然ながら不安はありました。はじめは、目の前の業務をこなすことに精一杯でしたが、一つ一つ業務をこなしていくにつれて、徐々に仕事の進め方や社会人としての基礎が身につきました。また、採用業務の中で総務省の魅力を発信することを通じて、自分自身が総務省でやりたいことを改めて考えるきっかけとなりました。

北海道赴任時代

2年目

令和2年11月～令和4年3月

北海道総合政策部
地域行政局市町村課

北海道庁では道内の市町村と国の機関との調整業務を行いました。具体的には、国から調査の依頼があった際に、市町村の担当者へ調査内容を周知し、市町村からの回答をとりまとめ、国へ報告します。また、市町村からの法律や制度に関する問合せに対して、必要に応じて国に確認をとりつつ、過去の事例を参考に対応するといった業務を行いました。

初めての地方での一人暮らしで、最初は不安でしたが、北海道庁の職員の方々に支えていただき、1年半と短い期間ではありましたが、私にとってかけがえのない経験となりました。

自治財政局時代

4年目

令和4年4月～令和6年9月

自治財政局準公営企業室

準公営企業室では、自治体が運営する病院に対する財政支援に関する業務を担当しました。自治体病院は、過疎地域や山間部などの地理的条件が悪く、民間の病院では採算がとれないような地域の医療を担っており、地域で暮らしている住民の命を守る最後の砦です。

自治体病院の現状を把握するために、いくつかの病院に足を運び、医療現場を視察したり、実際に医療現場で働く医師や看護師の方々から意見を聞くという機会がありました。それらを踏まえて、自治体病院が持続可能な経営を実現できるよう、適切な財政支援制度の検討を行いました。

MESSAGE

地方自治 消防

自治税務局固定資産税課企画係長

阿久津 悠太

AKUTSU YUTA
平成24年入省

地方税制度のあり方を考える

What I Do

税のあり方を日々アップデート

自治税務局では、地方税制度の企画立案を行っています。私が所属する固定資産税課は、市町村にとって最も税収に占める割合が大きい固定資産税(全体の4割超、税収規模は10兆円の大体に)を所管しています。固定資産税は、どの市町村にも広く存在する土地・家屋・償却資産を課税の対象とし、税収が安定していることから、住民に一番身近な行政サービスを行う市町村にふさわしい重要な税と言えます。

課の業務としては、時代に即した税負担のあり方の検討や税額算定の基礎となる資産の価格を適正に評価するための基準の見直しを行っているほか、近年では、所有者不明土地や空き家、外国人、地価や建設コストの上昇などの新しい課題についても対応が求められています。また、課税の実務に関しても、基幹システムの標準仕様の統一や、様々な手続きを電子化する仕組みづくりを通して、市町村が効率的に事務を行えるよう、日々アップデートを図っています。



国会答弁に随行

Welcome Message

全国の自治体に仲間がいる喜び

国と地方の両方の立場を経験できることと、それに伴い多くの人と一緒に働いて、日本中につながりができることが、総務省ならではの魅力です。総務省の役割は、地方自治に関する制度やルールを作ることで、実際にそれを運用するのは都道府県や市町村職員の方々です。自治部局で採用されると若いうちに地方赴任の機会が与えられ、私も大分県に赴任しましたが、地方公務員としてかけがえのない経験を重ね、総務省に戻ってからも、自分の仕事が大大で暮らすあの人やあのまちの行政サービスにどのよ

うに影響するのだろうということを想像できるようになりました。

また、逆に総務省にも自治体から多くの職員を派遣していただいております。それぞれ1・2年とは思えないほどに密度の濃い苦楽を共にした仲間たちが、北海道から沖縄まで日本各地で活躍していることは大変心強く、所属先は離れても、地方自治を支えるという同じ使命を持った同志のように感じています。



大分県庁時代の駅伝大会にて

Q

これまで携わった仕事でやりがいや達成感があったものは何ですか？

係長としてふるさと納税を担当した2年間は特に印象に残っています。それまでも同じ局内で身近な先輩が担当する姿を見て大変な席だと思っていましたが(制度創設以来の大改正やそれに伴う各種対応など、いろいろあった時期でした)、気づけば私とその席に。

関わる相手は自治体のみならず、国・地方の議員、関連事業者(ポータルサイト、地域商社、システム会社ほか)、マスメディア(時には海外の)、他省庁(特に食品関係で農水省の皆様)などなど、普段の地方自治関係の業務ではあまり関わりのない人たちも含め、様々な出会いがありました。

毎日新しい「何か」が起きる刺激的な日々の中、担当として各方面からの問合せや相談を一手に引き受け、自分が一番詳しくなくてはならないというプレッシャーはありましたが、その分、やりがいと充実感がありました。(ここでは、具体的話は書ききれないので、気になった方はぜひ入省して聞きに来てください。)

消防庁国民保護・防災部防災課
応急対策室応急対策第一係長

宮澤 明香里

MIYAZAWA AKARI
平成29年入省

消防庁の職員として

What I Do

一体感のある職場

総務省消防庁では、大規模な災害が発生した際には災害対策本部を立ち上げ、全職員で災害対応にあたります。具体的には、都道府県や市町村、消防機関から収集した情報を庁内や政府内で共有するとともに、被災地の消防力が不足する場合には、他県からの消防応援の制度である緊急消防援助隊の出動の求めまたは指示を行います。私の所属する応急対策室では、消防庁の応急体制の検討や図上訓練の企画運営など、災害に備えた庁内の仕組みづくりを行っています。消防庁は、災害が起きれば一旦平時の業務の手を止めて全力で災害対応にあたり、また、日々の災害対応や訓練を検証して、どのように練度を高めていくかなど、役職関係なく話し合い改善していくことができる一体感のある職場だと感じていますし、これらが、現地で実際に災害対応される方の活動や、被災地の方々の支援に繋がっていると考えています。

Welcome Message

15年前を思い返すと

2011年3月、高校生だった私はテレビに映る東北の姿に衝撃を受けました。自分にできることはないかと調べ、避難者の受け入れをしている施設で、食事の配布や物資の仕分けなどのボランティアをすることになり、その頃から漠然と、防災に携わる仕事ができればと思っていました。縁があり総務省に入省し、岩手県庁に出向した際には、震災復興特別交付税という、東日本大震災によって被災した自治体に交付される特別な交付税の算定を担当しました。当時は道路の復旧や防潮堤の建設などの事業をまさに実施しているところであり、交付税がこれらの財源となっていることに身の引き締まる思いがしました。また、4月からは消防庁の職員として、豪雨や大分市の火災、青森県東方沖地震などの災害対応を経験しました。総務省は所掌が広く様々な経験ができます

ので、皆様には、視野を広く持ってやりたいことを見つけていただきたいと思います。



新たに消防庁のブルゾンを制作しました!

Q

仕事をする上で心がけていることはなんですか？

仕事をする上では、人とのコミュニケーションが欠かせません。職場の上司、同僚、部下、他省庁の担当者、都道府県防災担当部局の担当者、システムの保守業者など、日々様々な方と接するため、お互い気持ちよく仕事を進められるように丁寧なやりとりを心がけています。特に、室内では定期的にミーティングを行い、業務の進行状況や今後の課題などを共有することで、業務はもちろん休暇の相談も気軽に行うことができ、大変な時はカバーし合おうという雰囲気が出ています。消防庁では、全国の消防本部から来られている方もたくさんいらっしゃいますが、チームとして過酷な現場で対応されてきたためか、コミュニケーション能力や協調性が高い方ばかりで、日々助けられているとともに刺激を受けています。

MESSAGE

情報通信 (ICT)

総合通信基盤局電気通信事業部
事業政策課基幹通信係長

佐々木 旭

SASAKI AKIRA
平成27年入省



変化を楽しみ、通信の未来を形にする

What I Do

通信の転換期を支え、次世代に繋ぐ

主にNTT法や電気通信事業法の運用を担当しています。これらの法律は令和7年に改正されており、現在は法改正を施行するための準備として、関係する省令等の改正作業を進めています。

また、昨年、NTT東西がメタル回線を利用した固定電話サービスの移行計画を公表したことに伴い、円滑な移行に向けた必要な対応についても検討しています。最近では、固定電話は光回線とセットで契約されていたり、そもそも固定電話の契約自体が無かったりすることも多いですが、それでもメタル回線はまだ数多く利用されており、移行には今後10年ほどかかることが見込まれています。NTT東西が取り組む計画ではあるものの、日本全国の非常に多くの方々に影響する取組です。消費者の方々への詐欺被害防止や関係事業者も含めた影響などを十分に考慮した上で、最初にしっかりとした方向性を定めることで、よりスムーズな移行に繋げることが重要だと感じています。

Welcome Message

異動のたび、新しい自分に出会う

入省するまで正直総務省がどのようなところなのかあまり分かっておらず、何となく様々なことができそうだなと思っていました。

入省してからは、想像していた以上に様々なことにチャレンジできていると感じています。今はNTT法や事業法関係を担当しており、主にNTT東西の監督業務などを実施していますが、その前は同じ事業法でも消費者保護関係に携わっており、それ以前には電波法の免許申請処理や電波利用料について、また、庶務として全体調整や予算要求など、異動の度に担当することが変わっていくので、毎回新鮮な気持ちです。加えて、情報通信の世界は技術の進歩などによって日々トレンドが変わるので、同じ部署であっても、数年、時には1年経たずに業務の比重が変わっていきます。新しい経験ができる反面、ついていくのは大変ではありますが、過去の積み重ねを生かしながら新しいことにチャレンジし続けられる環境はありがたいと思っています。

Q

入省後、成長したと思うことは？

学生時代は理系の学部でソフトウェア工学などを学んでおり、法律などには全然触れてきませんでした。そのため入省当時は、法律を読むことや、制度の複雑な関係性を理解するだけでもすごく苦労しました。それに、自分なりに細かく調べた上で上司に相談しても、思いもよらない角度から指摘を受けて撃沈することも多々ありました。最初はどのようにして上司がそこに気づけるのか不思議でなりませんでした。それでも自分と上司の着眼点などの違いを一つ一つ自分なりに整理していくことで、少しずつ的確な判断が出来るようになることを実感しました。今でもこの気持ちを忘れず、常に自分の考え方が合っているか調整するようにしています。入省したときに全てできるわけがないので、少しずつでも積み上げていくことが大切だと感じています。

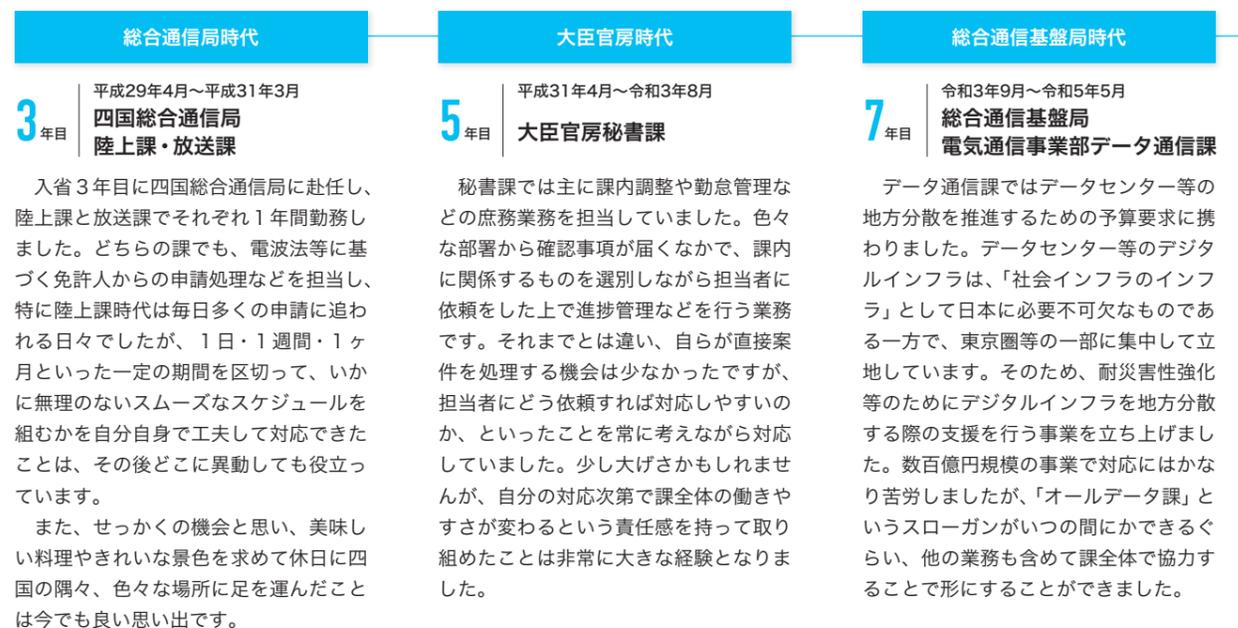
とある1週間

- 月 事務局を担当している委員会の準備、資料作成。
- 火 事業法やNTT法に係る申請対応。事業者との打合せも。
- 水 法改正に伴う省令改正に向けた検討、省令案の準備。
- 木 委員会当日。事務局として司会などもします。
- 金 気持ちよく週末を迎えるために係内で進捗確認や残務処理。



固定電話サービス移行円滑化委員会での1コマ

CAREER PATH



MESSAGE

情報通信 (ICT)

情報流通行政局
放送施設整備促進課主査

松濤 利華子

MATSUNAMI RIKAKO

平成25年入省



社会を支え、自分らしく働く

What I Do

「当たり前」を支える仕事

皆さんは、テレビやラジオをどれくらい身近に感じていますか。私たちが日常的に触れている地上波テレビやラジオは、放送局からさまざまな放送設備を通じて、全国の視聴者のもとへ届けられています。

ボタン一つで当たり前のように映像や音声が届くその裏側には、災害などが起きてても放送を止めないための、多くの工夫と備えがあります。

私は現在、そうした「当たり前」だと思えることを支える、放送ネットワークの強化を担当しています。

具体的には、災害発生時にも放送が途切れないようにするための設備の増強等に向けた補助金制度や、災害放送を目的として一時的に開設されるFM放送局（臨時災害放送局）の設備備などを通じて、放送事業者や自治体を支援しています。

こうした取組を通じて、災害時などの重要な局面において、必要な情報を確実に届けられる環境を守ることが、私たちの仕事です。

Welcome Message

人に支えられながら働ける場所

入省して驚いたことの一つは、職場の雰囲気や想像していたよりも堅苦しくなかったことです。

日々の業務は和気あいあいとした雰囲気の中で進められており、上司や先輩も気さくな方が多く、若手であっても相談や質問をしやすい環境だと感じています。

分からないことがあれば丁寧に教えてもらえるだけでなく、自分の意見を求められる場面もあり、若いうちから業務に主体的に関わることができます。

意見交換が活発に行われる場面もありますが、それぞれの考えを尊重しながら前向きに議論が進められる、程よい緊張感のある

職場です。もし、総務省の業務内容に興味があれば、気軽に説明会等にお越しいただければと思います。



防災訓練で臨時災害放送局を展示



特に若手が元気の職場です

Q

あなたが実践する「働き方改革」とは？

現在は、子育てのために1時間勤務時間を短縮して働いています。

勤務時間が限られているため、業務の優先順位を意識し、関係者との情報共有をこれまで以上に丁寧に行うよう心がけています。また、テレワークも活用しながら、家庭の状況に合わせて働き方を調整しつつ、周囲のサポートを受けて業務に取り組んでいます。

こうした工夫を重ねることで、チーム全体の業務が円滑に進む場面もあります。働き方改革は特別なことではなく、日々の積み重ねだと感じています。

また、家庭事情などで勤務時間が限られていたとしても、業務内容が限定されることなく、フルタイムの職員と同じように様々な仕事に携わり、経験を積むことができます。

将来、ライフステージが変わっても働き続けられる環境があることを実感しながら、仕事の時間が子育ての息抜きに、子育ての時間が仕事のリフレッシュにもなる——そんな働き方を実践しています。

サイバーセキュリティ
統括官付参事官付

河村 駿介

KAWAMURA SHUNSUKE

令和5年入省



未来を守るサイバーセキュリティ

What I Do

サイバーセキュリティを取り巻く環境

昨今、ランサムウェア等の社会の経済基盤に重大な被害を及ぼすような事案も多数出現しております。そのため、適時・適切にサイバーセキュリティ対策ができるよう備えることが重要です。しかし、サイバーセキュリティ対策を行わなければならないと思いつつ、何をすればよいか分からない方も多いかと思います。

私は、そのような方々に対して各総合通信局や経済産業省と連携し、地域 SECURITY という中小企業等に対するイベント・演習によるサイバーセキュリティ対策等の普及・啓発活動やクラウドや AI、スマートシティ等の様々な分野に関するサイバーセキュリティのガイドラインの作成等による支援を行っております。

サイバーセキュリティ対策は継続的に実施することが必要です。イベント等の実施やガイドラインを通じ、これからも国民へのサイバーセキュリティ対策の支援に取り組んでまいります。



佐賀県での講演

Welcome Message

最前線での学び

総務省の情報通信分野では、情報通信以外にも放送や郵政行政などの幅広い業務を所管しています。また、情報通信分野の業務の特徴としては、技術や社会環境の変化が早いことが挙げられます。私が現在、担当している業務であるAIのサイバーセキュリテ

ィに関しても、技術は進歩し続けています。このような、社会の基盤を支える最先端技術等の進化を身近に実感しつつ業務を行えるのは、総務省ならではの魅力だと思います。

その一方、このようなやりがいを実感するには日々の自己研鑽は欠かせません。総務省では、有識者会議等で各分野のエキスパートと協力し国民への情報発信等の調整を行えますが、日々のインプットがそのまま、業務の質に直結してしまいます。自分自身の成長が社会への貢献に直結する実感こそが総務省で働く面白さだと思います。変化の最前線で社会に貢献したいと思っている方に、オススメです！

Q

総務省を目指すことになったきっかけは何ですか？

大学生の時に、法学部で行政法を学んでいたこともあり、公務員とはどのような業務をしているのだろうとふと感じ、官公庁の仕事に興味を持ったことが始まりです。ただ当時は、公務員の業務に詳しくなかったため、いろいろな省庁や自治体の説明会に参加し、業務内容を伺いました。

総務省の情報通信分野に興味を持った理由は説明会に参加した際、情報通信インフラが国民生活や経済活動の基盤として、通信環境の安定性への重要性が増していると感じたからです。まだ総務省に入省して3年程度ですが、その重要性については日々、感じています。

今後、私が担当する業務内容も大きく変わっていくことが考えられますが、未来を見据えて様々な施策を担当できることが楽しいので、総務省を志望して間違っていないかなと思います。

MESSAGE

情報通信 (ICT)

総合通信基盤局電波部電波環境課
認証推進室基準認証係長

宇野 裕太郎

UNO YUTARO
平成20年入省



無線機器の認証における課題の解決に向けて

What I Do

無線機器の基準認証制度

現在、私は、無線機器の技術基準適合性に関する制度である基準認証制度の業務を担当しています。無線機器は無線の資格をもつ人が使う特殊なものだけではなく、携帯電話や無線 LAN など、大人から子どもまで全ての人が使っている、身近なものもたくさんあります。このような無線機器は、資格をもっていない人でも適切に電波を使用することができるように、法令で定める技術基準に適合していることについて証明・認証を受ける必要があります。近年は無線技術の進展がめざましく、市場のグローバル化も進んでおり、基準認証制度の運用には様々な課題が生じています。法令と制度の運用の間の歪みが生じる中、様々なステークホルダーから改善の要望を受けており、課題解決策を検討する毎日です。検討に当たっては、名だたる大企業の方々と意見交換したり、最新の無線技術についての知見を得たりと、大変刺激的で勉強になることが多く、やりがいを感じています。

Welcome Message

5年、10年先を見据えて

私はこれまで無線システムの技術基準や周波数の割当てなど、電波に関する様々な業務に携わってきました。私が総務省に入省した頃はスマートフォンが始めたところでしたが、まだインターネットサービスは満足して使える状況にありませんでした。その後、携帯電話はLTE、5Gと、無線LANは11ac、11ax、11beと進化し、有線回線と比べても遜色ない通信環境が無線で実現しています。このように無線技術が進展・普及していくことはいいことなのですが、一方で、そのスピードが速すぎて制度が実態にそぐわなくなるなど、法令と制度の運用に歪みが生じていることも事実です。今後、無線通信はますます重要となってくるので、総務省の情報通信行政の仕事はやりがいを感じられるとても魅力的な

仕事だと思います。情報通信行政に興味をお持ちの皆さんは、ぜひ、5年、10年先の情報通信技術を活用した世界がどうなっているのか想像して、総務省でやりたいことを考えてみてください。



web会議での審議会の開催



制度改正の検討

Q

これまで携わった仕事で達成感があつた仕事は何ですか？

一番印象に残っているのは、地デジの難視対策をしていたデジタル放送受信推進室での仕事です。地デジの難視対策というのは、地上テレビ放送のデジタル化によってテレビが視聴できなくなった世帯にさまざまな対策を支援する施策で、デジタル放送の開始後、約6年の期間をかけて実施されました。私がこの部署に配属されたのは平成25年の夏で、ちょうど難視対策の最終盤の時でした。この時は、対策が難しい地域に住まれている個別世帯の対応を総合通信局の職員が1件1件している状況で、私もテレビが視聴できない個人のお宅に伺う機会がありました。地デジ化は国策として大々的に進められたもので、このような大きな施策も1件1件の小さな対応の積み重ねで進められているということを感じた貴重な経験でした。そして、平成27年の6月に地デジ化は完全終了したのですが、この瞬間に担当職員として業務に携われたことは、非常に達成感を感じるものでした。

情報流通行政局
地域通信振興課政策係長

川口 梨紗花

KAWAGUCHI RISAKA
平成28年入省



デジタルの力で社会を支える

What I Do

デジタル技術で地方を拓く

現在、日本は人口減少や少子高齢化といった問題に直面しており、特に地方での影響が深刻です。こうした課題を解決する手段として、デジタル技術が注目されています。私が所属する地域通信振興課では、「地域社会 DX 推進パッケージ事業」を通じて、デジタル技術で地域の問題を解決するお手伝いをしています。

人材育成、新しい通信技術の実証、インフラ整備等の幅広い支援を行っています。私はその中でも自動運転や AI の実証事業を担当しています。安全な自動運転を実現するには、通信技術を使った遠隔監視やカメラ等による周辺情報の取得が不可欠となるので、安定した通信が行える技術等の実証を行っています。また、AI を使った実証では、効率的な通信方法や、電波が届きにくい場所での通信環境の構築技術について検証しています。実証は全国各地で行われており、視察で地方へ出張に行く機会も多いので、特に旅行が好きな人は楽しめる仕事だと思います。

Welcome Message

暮らしに密着した仕事

総務省が所管している情報通信技術は、今や関係がないものを探す方が難しいくらい、あらゆるところで使われています。そのため、人々の生活に深く関わっていると感じられる点が総務省の魅力の一つだと思います。

私はこれまで、サイバーセキュリティ、電気通信事業、放送と様々な業務を経験してきましたが、そのことを特に強く感じたのは、電気通信サービスの消費者保護を担当した時です。この業務では、インターネット契約時のトラブルといった苦情相談の生の声を目にする機会も多く、誰もが安心してサービスを利用できる環境を作ることで、こうした苦情を減らすことに繋がっていくんだということを肌で感じました。

総務省の仕事はいずれも暮らしの根幹を支えるものなので、自分の仕事の人々の生活を形作る一翼を担っているということを実感でき、大きなやりがいを感じられます。皆さんも一緒に未来を創造していく喜びを体感してみてください。



ラジオの送信所を見学しました



実証中の自動運転車に試乗しました

Q

あなたが実践する「働き方改革」とは？

優先順位を意識して、効率的に業務を進めることを心がけています。

毎日の業務は、今すぐにやらなければならないものから、期限まで余裕があるものまであり、また、作業に要する時間も様々です。その中で、今日中に対応しなければならないもの、今日中だけでなくも早めにやるべきもの、急ぎではないもの、といったように重要度や緊急度に応じて分類した上で、タスクを管理しています。

仕事が残っていると残業してでも終わらせたくありませんが、疲れているとミスもしやすいものです。急ぎでないものは明日に回してしっかりと休むことで、リフレッシュした状態で仕事に取り組むことができます。また、ここまでやったら今日は帰ろう、というゴールを明確にすることで、モチベーションも保ちやすくなります。今日やるべきことと明日でも良いことをしっかり見極め、休める時は積極的に休むことが、よりよい仕事に繋がるのではないかと思います。

MESSAGE

行政管理
行政評価
統計

統計局事業所情報管理課
情報解析第一係長

泉 和樹 IZUMI KAZUKI

平成29年入省

統計が拓くこれからの未来

What I Do

600万の事業所を調査する

私が所属する統計局では、国勢調査をはじめとする多くの重要な統計調査を実施しています。

私は現在、経済センサスという調査を担当しています。この調査は日本にある全ての企業・事業所（約600万事業所）を対象として、売上や従業者数などを調べる大規模な調査です。調査結果は行政施策の立案や、民間企業における経営計画の策定など、社会経済の発展を支える基礎資料として広く活用されています。

近年、統計調査の実施において「オンライン回答の促進」が重要なキーワードとなっています。オンライン回答は、回答者の負担軽減や利便性の向上につながるだけでなく、調査を実施する側にとっても事務の効率化というメリットがあります。1つでも多くの事業所がオンライン回答していただ



後輩の作成した資料の確認



国際会議に参加する機会も！

るよう、調査用品の工夫や回答サイトの改善、広報・啓発活動などには特に力を入れて取り組んでいます。

Welcome Message

総務省って聞いたことはあるけど…

中央省庁の中でも「何をしているのか分からない省庁」と思われがちなのが総務省です。その理由を考えたときに真っ先に思い浮かぶのは「総務省」という漠然としたネーミングです。私もかつてそうでしたが、「総務をする省？」と頭を抱えた方も多いのではないのでしょうか。

実際何をしているのかというと、このパンフレットをご覧ください。いただければ分かるように、国民生活に直結する多彩な分野を担っているのが総務省です。中央省庁の中でも特に守備範囲が広く、「総（すべ）てを務（つと）める省」という名前にも納得できます。

その守備範囲の広さゆえに、多様なキャリアを描くことができるのが総務省の魅力です。入省時に明確なキャリアプランがなくても、様々な業務を経験する中で、自身の関心や強みを見つけ、最適なフィールドを切り拓いていくことができます。少しでも気になる業務があれば、ぜひ説明会などに参加していただき、先輩職員に話を聞いてみてください！

Q

学生時代は何をしていましたか？

大学生の頃は、そこまで熱心に勉強に取り組んでいたわけではありませんでした。どちらかといえば、友人と遊んだり、趣味やアルバイトが生活の中心になっていたと思います。その結果「平凡な大卒」として社会人になったことは少し後悔していますが、幸いなことに、入省後に研修を受講する機会が多くあり、統計や語学、AIなど多くのスキルを習得することができています。

趣味では、Jリーグの柏レイソルのファンだったこともあり、時間があればホームの日立台スタジアムへ試合観戦に行きました。当時はレイソルの黄金期と呼ばれるほど強い時代で、応援していて本当に楽しかったのを覚えています。近年は停滞期に入ってしまい、以前ほどの熱量はなくなりつつありましたが、2025シーズンで大躍進を遂げたことで、再びモチベーションが高まっています！

とある1週間

- 月 今週の予定や業務の進捗を担当内で報告。
- 火 次回調査に向けて課内で意見交換。
- 水 生成AIに関するフォーラムに参加。今後の業務に活かせないか検討。
- 木 (テレワーク) 申し込んでいたオンライン研修を自宅で受講。
- 金 今日はお世話になっている先輩と飲み会があるため定時退庁！



次回調査に向けて課内で意見交換



大きな仕事落ち着いたと息(先輩職員と)

CAREER PATH

物価統計室時代

1年目

平成29年4月～平成31年3月
物価統計室物価指数第一係係員

最初に配属された部署では、消費者物価指数(CPI)の公表を担当しました。全国から集められた価格のデータからCPIを作成し、誰でも利用できる形でHPやe-Statへの公表を行いました。CPIは年金額の改定や各種経済政策に利用されるなど世の中の関心も高く、仮に公表した数値に誤りがあった場合は大問題になります。そのため常に緊張感のある業務でしたが、無事に公表できた時にはすごく達成感がありました。また、上司の勧めで統計研修や語学研修に積極的に参加し、統計職員として大きく成長することができました。

内閣府時代

3年目

平成31年4月～令和4年3月
内閣府経済社会総合研究所
国民経済計算部国民支出課係員

3年間に内閣府に出向しGDP統計の公表を担当しました。GDP統計の中でも四半期毎に公表する四半期別GDP速報(QE)は「日本の経済成長率」としてメディアで大きく取り上げられました。短い作業期間の中で多くの統計データや財務資料を分析し、適切に計数に反映する必要があります。また、この時期はコロナの影響で週の半分はテレワーク勤務になるなど働き方が大きく変化しました。最初はやりづらさもありましたが、徐々に自分のスタイルを確立し、働き方を見直す貴重な経験になりました。

労働力人口統計室時代

6年目

令和4年4月～令和5年7月
労働力人口統計室
企画指導第二係係員

就業構造基本調査という雇用に関する大規模な調査を担当しました。ここでは調査用品の調達や広報、地方自治体との調整など主に調査の企画に携わりました。大規模調査では多数の事務が同時並行で進むため、調査事務全体を網羅的に把握し、進捗管理を徹底する必要がありました。私自身初めての企画業務だったこともあり戸惑うことばかりでしたが、上司や先輩、時には地方自治体の方から多くのサポートをいただき無事に対応することができました。また、この企画業務を通じて統計調査は多くの人の協力成り立っていることを実感しました。

行政管理
行政評価
統計

行政評価局評価監視調査官
(厚生労働等担当)

石原 裕也

ISHIHARA YUYA

平成25年入省



自由な発想で理想の行政像を考える

What I Do

調査を通じて、よりよい行政を模索する

国の行政機関は、政策目標を実現するため、限られたリソースの中で工夫し、地に足をつける形での実現が求められています。それはとても難しいことです。私が所属する行政評価局では、所管官庁とは異なる立場から、地方公共団体や民間団体、そして事業の最終的な受益者となる国民も含めた現況を第三者目線で把握・分析し、所管官庁の把握していない事象等を提示することで行政運営の改善を図る業務を担っています。

そのため、メイン業務は調査となりますが、どの行政分野をどの範囲で調査し、何を提示することを目指すか、これを必死に考え、局内で議論を行います。その際、役職は関係なく、若手であっても積極性を発揮することができます。実際に調査を行う際も同様で、最終的な着地点を見据え、絶えず



打合せの風景。ひたすら議論します



ワークライフバランスも大事です！

自分の頭で考えながらヒアリングし、取りまとめていきます。ここまで徹頭徹尾、自主性が求められる業務は、公務員の世界では珍しいのではないかと思います。

Welcome Message

色々やりたい！そんなあなたは総務省へ！

特定分野だけでなく、国家公務員として幅広く色々な業務に触れてみたいという方、総務省はその期待に最も応えられる場所です。思い返せば、私もそのような希望をもって入省し、充実した日々を送ることができています。これまでも、総務省において、復興・外国人施策・教育・子育て支援・農林業・インフラ・生物多様性など非常に多様な業務と対峙してきました。いずれも最初は門外漢なので勉強の日々になりますが、特定の専門家ではないからこそ、多様な経験に培われた知見を活かし、自由な考え方で行政のあるべき姿を追い求めることができるのだと思います。

また、総務省は働きやすい職場です。私は現在2児の子育てをしていますが、職場にはワークライフバランスを尊重する風土があり、テレワークを積極的に実施できるなど、安心して業務に取り組むことができます。総務省に少しでも興味を持たれた方、是非とも一緒に仕事してみませんか！

Q

仕事をする上で
心がけていることはありますか？

私が仕事で意識していることは2点あります。
1点目は、自分の考えを表すことです。配置されたポストで、自分だからこそできることは何かを常に考えるようにしています。そのためには安易な前例踏襲ではなく、自分の考えを意識的に述べるようにしています。幸運なことに、私はこれまで環境に恵まれてきたのか、黙っつけ！と言われたことはありません。ありがとうございます。総務省の皆さん。

2点目は、かつて参加した会議において、とある参加者の方が発した「行政に何かを言うとき、痛みを伴うようでないダメだ。痛みが無ければ、それは毒にも薬にもならない。」という言葉です。議題が行政改革であったための発言でしたが、私も行政管理・評価を行う身として、つい易きに流れてしまいそうな際の自らへの戒めとしてこの言葉を心に留め置いています。

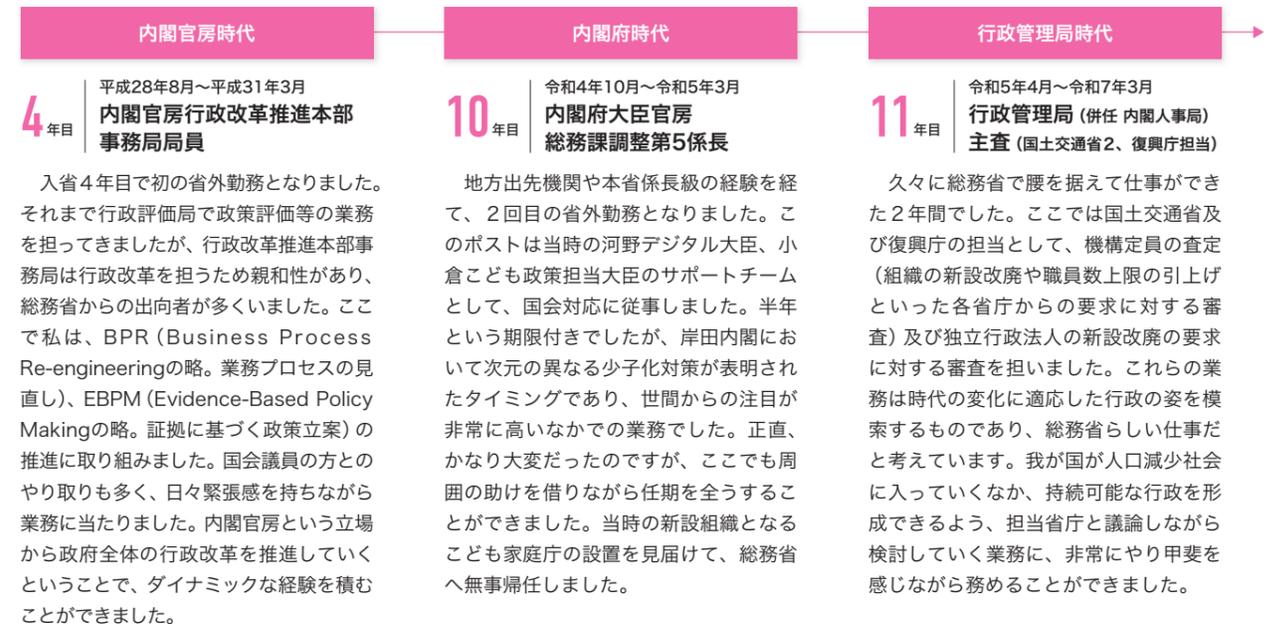
とある1週間

- 月 週一回の局幹部との意見交換会。前週の調査結果の取りまとめ
- 火 翌日からの調査の準備（ヒアリング事項の整理・室内の頭合わせ）
- 水 出張1日目（午前はNPO法人、午後は医療機関へのヒアリング）
- 木 出張2日目（市町村へのヒアリング）。業務時間終了後、現地名物を食べ帰宅
- 金 調査結果の取りまとめ。把握した課題や問題点を室内で議論



海外調査もあります（UAEの日本人学校にて）

CAREER PATH



MESSAGE

行政管理 行政評価 統計

行政管理局企画調整課総務係長

小松 美郷

KOMATSU MISATO

平成28年入省

多様なフィールドで、日々模索中

What I Do

組織を支える縁の下の力持ち

私は現在、行政管理局で総務・人事を担当しています。総務・人事は、職員の異動や採用、給与、勤怠管理、行政文書管理、備品調達、研修など、多岐にわたる業務を担っています。いわば、職員が日々の業務を円滑に進められるよう支える「縁の下の力持ち」のような存在です。直接国民の声を受け止めて政策づくりに携わる実働部隊とは異なりますが、職員にとって働きやすい職場づくりが組織の成長に繋がっていると思います。

特に、人事、給与、勤怠管理の分野は制度改革も多く、職員からの照会も頻りに寄せられるため、正確な制度理解と分かりやすい伝達力が求められます。また、総務・人事は重要な情報が真っ先に集まる部署でもあり、日頃のきめ細かな情報共有や関係部署との連携が欠かせません。夏の人事異動期は特に忙しい時期となりますが、その分、社会人としての基本的な動作や、組織運営の基礎を身につけられる部署でもあると思います。

Welcome Message

幅広い経験で強みを見出そう

総務省の魅力は、何とんでも幅広い業務に携われることだと思います。多様な分野（行政運営の改善や地方行財政、選挙、消防防災、情報通信、郵政行政、統計等）がある中で、現場で直接課題に向き合うこともあれば、大臣官房で省全体の司令塔となったり、今の私のようにバックオフィス業務で組織を支えたりということもあります。あるいは、出向によって他省庁や自治体、民間企業などで経験を積む機会や海外で働くチャンスもあるかもしれません。こうした経験を重ねる中で成長し、自分の得意分野や強みが形づくられていくのだと思います。私自身、いくつかの業務を経験しましたが、自分の強みが何なのか、まだまだ模索中です。総務省では概ね2〜3年で異動の機会が巡ってくるため、次

にどんな業務を担当するのか、毎回新鮮な気持ちで楽しみながら働いていますし、今後も色々な経験をしたいと思っています！



課の忘年会でリフレッシュ



長期休暇は友人と海外へ

Q

総務省を目指した きっかけは何ですか？

就職活動中の私は、明確な「やりたいこと」や得意分野が見つけれず悩んでいました。そんな中、総務省の説明会に参加し、行政運営の改善に向けて各省庁の政策・事業について多角的に調査していること、そして国民の意見等を受け付けて制度改革につなげる仕組みがあることを知りました。自分が関心を持つ課題を提案し、それが全国調査に発展することもあると聞き、国民の声を直接行政に反映できる可能性に強く魅力を感じました。また、総務省の魅力としても紹介したとおり、特定分野に限らず幅広い政策領域に携われることは、当時「まず視野を広げたい」と考えていた私にとって最適な環境だと思えたのです。明確な志望分野がある方はもちろん、私のようにやりたいことを模索中の方にとっても、説明会や官庁訪問に足を運ぶことで新たな気づきを得られ、視野を広げるきっかけになるはずです。

統計審査担当主査
(政策統括官付統計審査官付)

中島 三紀郎

NAKASHIMA MIKIO

平成28年入省

統計行政の司令塔として

What I Do

統計の総合的な品質向上を目指して

我が国では、各府省庁が専門分野の統計を個別に作成する「分散型統計機構」を採用しています。分散型統計機構では、各分野の専門知識や経験を活かし、行政ニーズに的確・迅速に対応した統計を作成することが可能です。他方で、統計を作成するための調査では、報告者負担や統計精度、重複是正への配慮が乏しい調査となる懸念があります。このため、統計審査官室では、調査設計の合理性、報告者の負担軽減への配慮などの統計技術的な観点から、調査実施者に対して審査・助言をすること、いわば「統計の品質向上を目指したコンサルティング」を役割としています。

また、中核となる公的統計を作成するための「基幹統計調査」（例えば国勢調査）では、学識経験者によって構成される統計委員会に対して意見を求めるなど、アカデミアと連携しながら統計の総合的な品質向上を目指して取り組んでいます。



統計委員会の様子です

Welcome Message

総てを務める省で

統計調査に関する審査・助言に当たり、統計に関する専門的な知識だけでなく、作成される統計の行政分野に関する理解も求められると感じています。統計は、経済、人口や社会活動に関するものなど、その行政分野は多岐にわたります。これら行政分野の個々の背景を理解しなければ、統計調査の合理性などを判断することが困難であると考えています。この状況を異なる視点で捉え

てみると、各行政分野が直面している社会的な課題や関心事項について、「統計」を通じて自然と触れることができます。

総務省では、「総（すべて）て」を「務（つと）める」省として、このように我が国が直面している多面的な社会的な課題に触れることが可能であり、多角的な視点から行政上の課題に対する改善点を見出すことが重要であると考えます。ここに、総務省で働くことの面白さがあると感じています。



3か月間育児を取得し、家族と大切な時間を過ごしました

Q

総務省を志望した理由は何ですか？

公務員は、福祉や環境、教育など関わる分野が広く、制度設計から現場での対応、さらには国際交渉や内部管理業務など仕事の幅が広い職種です。

このような中で、大きな組織で自分自身の可能性を広げたいと考え、国家公務員を志望しました。これまで、内閣府で公益法人に関する制度改革に携わり、会計検査院で北海道から沖縄まで土地等の国有財産に関する現場監査を行うなど、府省庁の枠を超えた多様なキャリアを積むことができました。

また、総務省は、国の根幹を支える幅広い分野を所管していますので、経験可能な仕事の幅の広さを魅力に感じて志望しました。実際に働いてみて、仕事内容の多様性だけでなく、子育てなどの家庭の状況や、国を動かす使命など多様な価値観が調和しており、誰もが自分らしいキャリアを支え合いながら描ける環境があると感じています。



消防庁総務課
松本 玲央
MATSUMOTO REO
令和7年入省

行政評価局企画課
飯山 陽捺
IIYAMA HINA
令和7年入省

国際戦略局国際展開課
古橋 知夏
FURUHASHI CHINATSU
令和7年入省

統計局統計調査部経済統計課
経済センサス室
高山 凌
TAKAYAMA RYO
令和7年入省

● 若手職員4名に、総務省で実際に働いてみて感じたことなどを語っていただきました。

現在は、どんなお仕事に携わっていますか。

高山: 経済センサス-活動調査という、企業・事業所の全数調査に携わっています。5年に1度の調査であり責任は重大ですが、その分やりがいを持って日々の仕事に取り組んでいます。

飯山: 行政評価や政策評価に関する企画・立案をはじめ、調査テーマの選定や総括、質の向上に向けた取組、審議会の運営など、評価制度全般の企画・調整を担当しています。

松本: 主に消防庁内の国会対応のとりまとめを行っています。具体的には、国会議員の方々から消防庁の施策に関する質問などがあつた際に、担当する部署への情報提供や、内容の調整を行う仕事をしています。

古橋: ASEANに関わる業務に携わっています。国際会議や各国との会談に伴う出張に際して事前準備や出張随行を行うほか、来訪対応、海外展開支援事業に関する各種手続きなどを担当しています。

上の意思決定に明確な根拠を持って動かれる方が多いです。「なんとなく」で動かず、自分の考えを持って仕事に臨まれている印象です！

入省前と入省後でギャップがあったことはあれば教えてください。

松本: 思っていたよりも働き方改革が進んでいたところです。公務員というとお堅いイメージを持っていましたが、テレワークや時差出勤など様々な制度が充実していて結構自由が利くんだなと意外でした。

飯山: それわかります！想像よりも業務に柔軟性があって、周囲のサポートも手厚く、入省前に抱いていた堅いイメージが良い意味で覆されました。

総務省を志望する方へメッセージをお願いします！

飯山: 総務省は、自分のアイデアを活かしながら行政を良くしていける、とても面白い職場です。みなさんと働ける日を楽しみにしています！

高山: 様々な選択肢があり、キャリア形成の幅が広い点は総務省の魅力の一つだと思います。最初は分からないことも多いですが、知れば知るほどやりたいことが増えていく職場です！

古橋: そうですね！入省前は多くの不安があるかと思います。実際に総務省職員へ相談できる機会もありますので、気軽に総務省の説明会などへ足をお運びください！総務省の魅力を肌で感じてもらえると思います。

松本: 古橋さんのおっしゃるとおり、説明会で生の雰囲気を感じるのには大切ですね！実際、職場や職員の雰囲気は説明会や官庁訪問で感じたとおりで、日々魅力溢れる方々と一緒に働くことができている、総務省を選んでよかったなと感じています。皆さんと総務省で一緒に働ける日を心から楽しみにしています！

業務で印象に残っているエピソードを教えてください。

古橋: 大臣出張で準備段階からさまざまな業務に関わり、報道にも取り上げられたことは特に印象に残っています。また、上司からはアグレッシブに業務を進めることの重要性を教わり、自ら業務を進めるよう心がけています。

松本: 災害対応業務が印象に残っています。令和7年12月に青森県で発生した地震で災害対応を経験しました。夜間の対応となり大変でしたが、消防庁ならではの業務を経験でき、やりがいを感じました。

周りの職員や職場の雰囲気はどうですか？

飯山: 気軽に話せる先輩が多く、雑談も含めコミュニケーションが活発です。若手の意見にも耳を傾けてくださり、意見交換の場も多く、風通しの良い職場だと感じています。

高山: 和気あいあいとしていますよね！そのような中でも、仕事

地域の国際化の推進について考える

8:30 登庁
登庁後は室内職員と自分のスケジュールを確認し、タスクを整理します。
この日は午後セミナーが開催される予定だったため、自分の担当作業を特に改めて確認しました。
タスク整理が終わったら、自分ひとりでするタスクは朝のうちに全て終わらせるくらいの気持ちで作業を進めます。頭がすっきりしている朝の時間帯に資料の細かい確認作業などを行うとミスが減らせますし、朝のうちに簡単なタスクをあらかじめ片付けておくと、その日急な対応が発生した時にもすぐに動けます。

10:00 資料作成
国際室では様々な事業を実施していますが、そのうち自治体の国際交流に関する事業の運営を行うことも、私の担当業務の一つです。この日は、連携している業者と連絡をとりつつ、担当している事業への参加募集資料を作成しました。とても優しく丁寧に教えていただけた上司にこまめに相談しながら、事業の計画からフォローアップまで、自分の手で運営管理を行うことができるので、事業の成果を実感できるやりがいのある業務の一つです。

12:00 ランチタイム
ランチは庁内のお弁当屋さんやコンビニのごはんを買って自席で食べたり、他省庁の食堂に行ったり、銀座へ行ったりと、選択肢はたくさんあります。
省内の同期と食べることも多いですが、他省庁に勤める友人とランチ会をすることもあります。様々な省庁の庁舎が集まっている霞が関ならではの交流を楽しみつつ、午後の仕事に向けてリフレッシュします。この日は銀座で中華料理を食べました。

13:00 セミナー対応
この日は「海外自治体幹部交流協力セミナー」が開催されました。このセミナーでは、イギリスの自治体幹部職員等を日本に招聘し、日本の地方自治の現状と課題についてブリーフィング及び意見交換等を行いました。
スムーズにセミナーが進行されるよう、準備に不足がないか注意しながら会場のセッティングなどを行います。会議中は議事録作成のためのメモ取りを行いました。
活発な意見交換が行われ、無事に有意義なセミナーとなりました！

16:00 上司にご報告
午前中に作成した資料を室長に説明します。
周辺知識の事前勉強を余念なく行い、事業進行の経緯と今後の方向性について過不足なく説明することを心掛けています。ご意見をいただいた後は、上司の考えが適切に反映された資料となるようブラッシュアップを行います。
多様化する国際交流施策の方向性を考えるにあたり、上司のご意見は知識面でも考え方の面でも非常に勉強になります。同じ情報を見ても、瞬時により多角的な視点からご意見をいただけるので、目から鱗の毎日です。

18:30 退庁
退庁後は、同期と飲みに行ったり、映画を観に行ったり、読書や趣味のバンド活動に動んだり、しっかりとリフレッシュして翌日の仕事のための英気を養います。
この日は通っている英会話教室でレッスンを受けた後、同期と遊びに行きました。
自治分野の職員はたいいてい入省3年目から2年間、いずれかの都道府県庁長官に就任します。来年度からの地方出向はとても楽しみです。同期と離れるのが寂しくなるくらい、入省してからの2年間で仲が深まりました。



自治行政局国際室
桜井 秀美 SAKURAI HIDEMI
令和6年入省

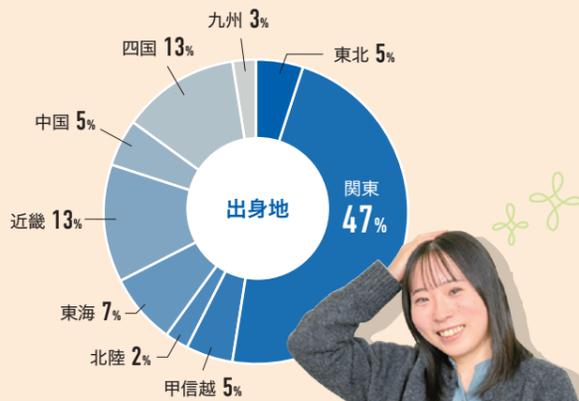
MESSAGE

私は現在、地域の国際交流の推進を目的とした事業運営や国際セミナーの運営、国際関係の地方財政措置に係る事務や自治分野の職員の海外渡航に関する仕事に携わっています。

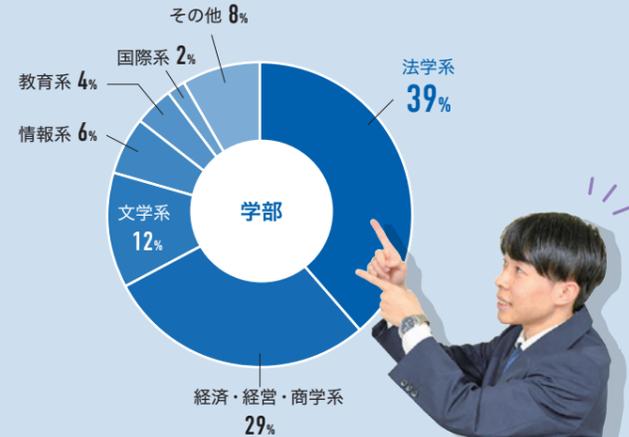
自分のがんばりが今地域に住んでいる誰かのためになっていると実感できる、とてもやりがいのある仕事です。

皆さんと一緒に総務省で働ける日を楽しみにしております！

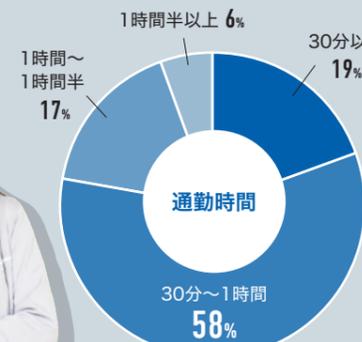
Q1 出身地を教えてください



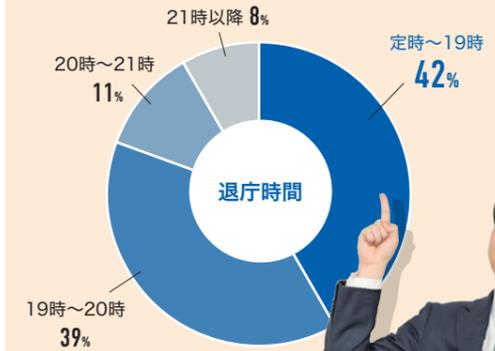
Q2 大学の学部を教えてください



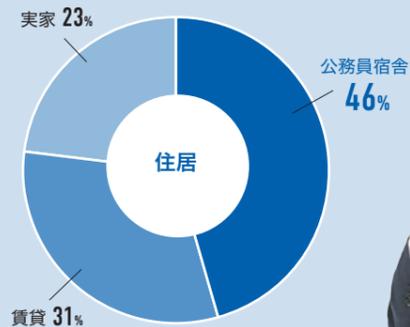
Q3 通勤時間を教えてください



Q4 平均退庁時間を教えてください



Q5 住居形態を教えてください



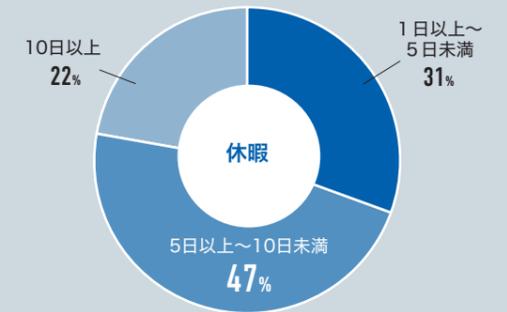
若手職員

入省1年目の職員 (令和7年度)

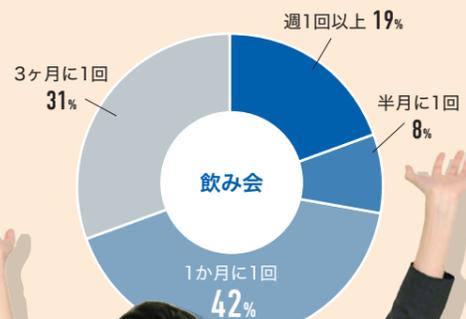
アンケート

入省)に聞いてみました!

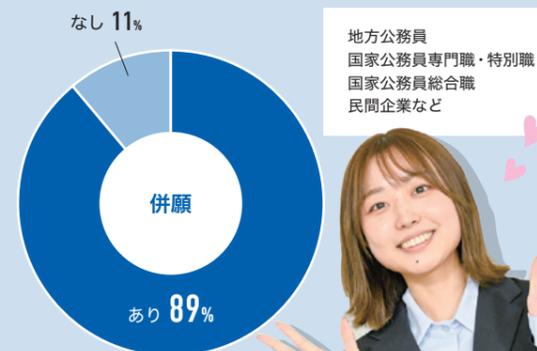
Q6 休暇取得数はどのくらいですか?



Q7 職場の同僚や同期と飲み会や食事に行く頻度はどれくらいですか?



Q8 併願先はありましたか?



地方公務員
国家公務員専門職・特別職
国家公務員総合職
民間企業など

Q9 総務省を選んだ決め手を教えてください

- 国の立場でありながら、地方のために働ける点に魅力を感じたからです。(自治財政局)
- 官庁訪問でお話した職員の方々の人柄に惹かれ、「この人たちと一緒に働きたい」と感じたからです。(消防庁)
- 情報通信の観点から、国民生活を支える仕事に携わりたいと考えたからです。(情報流通行政局)
- 情報通信や放送といった生活に密着した分野の発展に、国の立場から関わりたいと考えたからです。(大臣官房)
- 社会を支える仕事につきたいという、自分の目標の実現に一番近い場所だと思ったからです。(政策統括官(統計制度担当))
- 行政運営改善調査、行政相談、政策評価といった多様なツールを総動員し、より良い行政を実現していく点に魅力を感じ、総務省を選びました。(行政評価局)

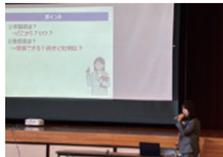
Q10 総務省の魅力は?

- 「行政をより良くする」という共通の目標に向けて、多様な考え方や意欲的な職員の方達と日々関わり、良い刺激を受けられるところです。(行政評価局)
- 国家公務員としても、地方公務員としても経験を積むことが出来ることです。(大臣官房)
- 全国の自治体職員の方と一緒に働くことで、全国各地に仲間を作れることです。(消防庁)
- 最新の技術に触れながら、制度改革にも携わることが出来ます。(総合通信基盤局)
- 国民生活や社会経済の動向について、関心を深めることができることです。(統計局)
- 業務で分からないことがあったときに、周りの先輩や上司に相談しやすい職場の雰囲気です。(情報流通行政局)

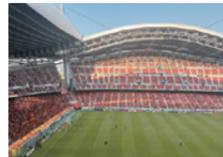


東海総合通信局情報通信部電気通信事業課企画監理官

野木 彩夏 NOGI AYAKA
平成31年入省



小学校で情報モラル講座を実施



同僚と豊田スタジアムでサッカー観戦

暮らしと未来を支える情報通信

What I Do

現場で支える情報モラル

私が所属する電気通信事業課では、誰もがインターネットを安心・安全に利用できる環境づくりに取り組んでいます。主な業務の一つが、子どもたちを対象にした情報モラル講座の開催です。近年、子どものスマートフォンの所有率が高まる中で、ネットへの不適切な動画の投稿など、ネット上のトラブルは深刻化しています。講座では、実際に起こり得るトラブルや未然に防ぐためのポイントを伝え、子どもたちが自分の行動を考えるきっかけとなるよう、日々工夫を重ねて授業を行っています。授業後に、子どもたちから感謝の言葉をもらえたときはとても嬉しいです。未来を担う子どもたちが、ネットと正しく向き合う力を身につける、その第一歩を支えられることに、大きな責任とやりがいを感じています。

Welcome Message

ICTの活用とルール作り

総務省の特徴の一つは、ICTを軸に幅広い仕事に携われることだと思います。私自身、入省後は、テレワークやスマートシティの推進、放送制度の検討、電気通信分野における消費者保護の取組など、多様な業務を経験してきました。また、業務の幅広さに加えて特徴的な点は、ICT活用の推進と制度整備の両面に携われることです。スマートシティの推進ではICTを活用した地域課題解決に取り組む一方で、放送制度の検討では外資規制の在り方の検討やその制度改正に携わりました。ICTを取り巻く環境が日々変化の中で、技術の活用を後押しすると同時に、安心して使えるように制度を整える。その両面から社会を支えられる点が、総務省の魅力だと感じています。

国民生活の安心・安全を守る

What I Do

総務省にもこんな職場が!!

関東総合通信局は総務省の出先機関として、本省が策定した情報通信関連の法令や政策を地方で執行する役割を担っています。私が所属する監視第二課では、消防・警察・航空などの重要無線通信への妨害申告に対応しており、国民生活の安全に直結する非常に責任とやりがいのある仕事です。

通信技術が激変する現代において、電波監視も新たな課題に直面していますが、職場では日々知恵を出し合い解決にあたっています。時には現場での調査や違反者への指導も行う、総務省の中でも少し特殊な職場ですが、こうした業務の存在をぜひ知っていただき、興味を持っていただければ幸いです。

Welcome Message

新しい課題に挑戦し続ける

私はこれまで国際関係の部署での勤務が多かったのですが、総務省での業務を通じて、常に新しい課題に直面してきたと実感しています。「お役所仕事」という言葉から連想されるようなルーチンワークとは異なり、前例のない課題に取り組む機会が非常に多くあります。情報通信分野は変化が激しく、社会に与える影響も大きいため、常に広い視野を持ち、知識をアップデートし続けなければ十分な職責を果たすことができません。

私自身、趣味でトライアスロンに取り組んでおり、常に新しいことへ挑戦することを好む性格ですが、未知の領域に挑みたい、学び続けたいという意欲のある方にとって、ここは非常にやりがいのある面白い職場だと思います。



関東総合通信局電波監視部監視第二課長

林 知治 HAYASHI TOMOHARU
平成15年入省



2025年世界陸上特別監視に係る国立競技場視察の様

学びがある職場

What I Do

困りごとの解決に向けて

総務省では、国民の方から寄せられる行政に関する意見や苦情を受け付け、解決に導く「行政相談」を行っています。行政相談は、国民と行政機関をつなぐ重要な役割を果たしており、様々な分野における問題解決をサポートします。

私は現在、総務省の出先機関である沖縄行政評価事務所に出向し、県内各市町村で活動している行政相談委員さんの支援を行っており、委員さんが参加する会議や研修会の準備、委員さんのみでは解決が難しい相談の解決などに取り組んでいます。また、ラジオ出演や大学での出前教室を通して行政相談の広報活動も行っています。より多くの方に行政相談を知ってもらい、困りごとの解決の手助けができるよう、日々励んでいます。

Welcome Message

新たな発見と学び

幅広い業務を経験できる環境に魅力を感じています。私はこれまで、行政評価局で行政運営改善調査、行政管理局で独立行政法人制度に関する業務に携わってきました。特に行政管理局では、独立行政法人会計基準を担当し、初めて触れる世界で勉強の日々でしたが、新しい分野を知る楽しさもありました。

また、現在は所属している行政相談課の業務だけでなく、若手職員でチームを組み、行政課題に関する情報収集活動も行っています。関係機関へのヒアリングや公表資料の作成など、普段行っている業務とは異なる業務を行う中で新たな気づきを得ることができ、学びの多い職場だと感じています。

最前線、現場と国を結ぶ挑戦

What I Do

現場の声で行政を動かす

私は現在、近畿管区行政評価局に出向し、行政運営改善調査の業務を担っています。行政の実態を正確に把握し、政策担当省自身では気づきにくい課題を見つけ、その解決を後押ししています。

主に本省が調査の設計や結果整理を担い、管区行政評価局では、より現場に近い立場から情報収集等を行います。自治体や関係機関を訪問し、担当者へのヒアリングや現場確認を重ねることで、課題を的確に捉えます。

さらに、本省主導の全国的な調査に加え、現場に近い立場だからこそ得られる気づきを基に、地域に密着した調査を自ら企画・実行することもできます。

国民や関係機関の役に立つ改善策を自ら生み出す面白さを感じながら、日々挑戦しています。

Welcome Message

多様な課題に挑戦できる場

行政評価局は、特定分野に縛られず幅広い政策を対象に調査を行います。多様な分野を扱うため、常に新しい知識を学び続ける必要がありますが、その分、幅広い視野と知見を得られることが大きな魅力です。私自身、就職活動では関心分野を絞れず、志望府省庁に悩みましたが、好奇心を満たせ、自身を成長させ続けられる行政評価局は理想の環境でした。

また調査には従来からの枠にとらわれない視点が必要です。そのため、行政評価局は若手の意見も積極的に活用される環境にあります。日々の学びで得た知識や視点を基に新たな課題を見つけ、自分発信で行政をアップデートし続けることができる点は、行政評価局ならではの大きなやりがいです。



近畿管区行政評価局評価監視部評価監視官付

西岡 由悟 NISHIOKA YÜGO
令和5年入省



昼休みに大阪城まで散歩



終業後は、ジムでリフレッシュ!



沖縄行政評価事務所行政相談課

伊藤 碧海 ITO AMI
令和5年入省



出張の合間に訪れたビーチ



県内旅行中に見つけた三線シーサー



地域を支える仕事

甲斐市副市長
瀬戸 隆之 SETO TAKAYUKI
平成16年入省

What I Do

山梨県甲斐市にて

甲斐市は、山梨県甲府盆地の中西部に位置し、東側は甲府市に隣接する人口約76,000人の市です。私は現在、市長を補佐する副市長として勤務し、市役所全体の事務執行を統括しています。

市役所は、幅広い行政サービスを住民に最も近い場所で提供し、地域を支える役割を担っていますが、人口減少時代においても、社会の環境変化に的確に対応するとともに、将来世代に対しても責任を果たし、ふるさとを引き継いでいくため、限りある人的資源や財源の効果的・効率的な活用に努めています。

副市長には、部局をまたぐ案件を集約、調整し、市長の政策決定を補助するとともに、事務執行を統括する役割も求められます。甲斐市の副市長の定数は1人であり、市役所全体をカバーすることで、重責ではありますが、貴重な経験でもあります。また、市長は、政治経験が大変豊富で、複雑な地域課題に対するアプローチなど、様々な学びをいただいています。

Welcome Message

様々なフィールドでの挑戦

いまこの資料を目にしている就職活動中の皆さんは、より良い社会づくりに貢献したいという思いと同時に、職業を通じた自己成長の可能性にも関心をお持ちかと思います。

総務省は、地方赴任を通じて、そこで働く人や住民への思いを馳せながら、国に戻り全国の地域のために働くことができる職場です。

また、様々なフィールドで働けることも魅力であり、これまでの経験が新たな職場で活かされ、成長を促してくれます。

かつて勤務した別の市役所では、財産活用の担当部長として、有休市有地の活用にあたり、企画段階から携わり、市場分析等を

行いながら、複合商業施設の開業につなげました。地域政策課でのローカルビジネスの支援の経験のほか、地方債課や金融機構等での不動産やファイナンスに関する業務経験も活きたと思います。社会貢献と自己成長は相互補完の関係であり、職業選択にあたり、ご関心あれば、総務省の門をたたいて頂ければ幸いです。

とある1週間

- 月 市の主要政策を審議する部長会議に市長等と出席します。
- 火 公園整備等に必要の財源の確保のため、国へ要望に出張します。
- 水 甲斐市地域公共交通会議の会長として、会議に出席します。
- 木 市長の代理として、一部事務組合の理事会に出席します。
- 金 市議会本会議に出席し、議員質問に対する答弁をします。



PRIVATE

甲斐市には、日本遺産御嶽昇仙峡や、釜無川の氾濫を治めるため武田信玄が築いた信玄堤などがあり、県内には、武田神社や身延山久遠寺などもあります。赴任地において、こうした歴史的名所や景勝地を訪れることは、地域を知ることと併せて、リフレッシュにもなっています。



鹿児島県総務部市町村課長
安本 康浩 YASUMOTO YASUHIRO
平成16年入省



衆院選の選挙啓発の課内打合せ



市町村課研修生OB懇親会

霞が関から市町村まで

What I Do

多様性を支える

皆さん、「うがみんしょ〜らん!」。奄美の言葉で「こんにちは」という意味です。鹿児島県は、南北約600キロと、鹿児島市から大阪市までの直線距離に相当する広がりを持ち、世界自然遺産である屋久島や奄美大島など多くの離島を有し、自然的にも文化的にも多様性に富んだ地域です。

そんな鹿児島県で、私は市町村課長として、市町村の行財政運営を支える仕事をしています。人口減少が進む中でも市町村が持続的に住民サービスを提供できるよう、職員の確保・育成や財源の確保、公共施設の再整備などの課題に応じた助言や調整を行っています。また、県庁の各部署と市町村をつなぐ「橋渡し役」として、現場の声を政策につなげる役割も担っています。

Welcome Message

机上では終わらない

総務省の魅力は、「制度をつくって終わり」ではないところです。職場には、国だけでなく県や市町村から来た職員が多く、皆が本気で地方のことを考えています。知識や経験、立場の異なるメンバーが集まり、互いに補い合いながらチームで動く雰囲気があります。

私は市や県への出向を経験し、国で関わった制度が現場でどう使われ、住民の生活や地域課題にどう影響しているのかを実感できました。その「実態」を知ることで、国での仕事の見え方(視点)も違ってきます。総務省で学んだ知識は、現場で課題に向き合う際の大きな武器になります。幅広い業務やさまざまな人との出会いを通じて、視野を広げながら自分自身も成長できる職場です。

行政の最前線で働ける総務省

What I Do

市民との交流

私は現在、青森県八戸市の総合政策部長として、市の将来都市像を掲げる総合計画の策定や周辺市町村との連携、市民との協働、国際交流、広報等、幅広い業務に従事しています。国の仕事と大きく違うところはやはり市民との距離が非常に近いところです。部長という職柄、様々なイベントに参加させていただくのですが、市内に在住する若者や外国人、さらには町内会といった地域単位の組織との交流を通じて、多くの市民と接しながら業務を進めています。もちろん多種多様な意見があるので、それを市側が上手にまとめて、みなさんが納得していただける形を作るのか、日々頭を悩ませつつも、色々な人たちと交流できる現在の業務を楽しんでいます。

Welcome Message

国家公務員と地方公務員

漠然と公務員になりたいと考えている受験者のみなさんは総務省をお勧めします。自治体とのつながりが強い総務省は、自治体への出向が珍しくありません。国家公務員として制度設計をした施策について、地方公務員として現場で経験し、そこで得た知見や地域の実情を吸収したのちに、総務省に戻ります。そして今度は地方での経験を生かして仕事をしていくことになります。

環境が変わる大変さもあるかもしれませんが、常に新鮮な気持ちで仕事に携われ、また、そこで培った人間関係は一生の宝物になるので、出向先においては第二の故郷を作ることができます。

国、地方双方の立場で公務員を経験できる総務省にぜひ興味を持っていただければと思います。



八戸市総合政策部長
谷神 善洋 TANIGAMI YOSHIHIRO
平成17年入省



氷都八戸市でアイスホッケーを体験



沖縄県企画部市町村課
廣瀬 絢理 HIROSE AYARI
令和4年入省



1年一緒に乗り切った市町村研修生と

総務省の魅力

What I Do

制度を運用する経験

現在、私は沖縄県庁でマイナンバーカードの普及促進に関する業務を行っています。主に離島町村では、担当1人が複数業務を抱えており、マイナンバーカードの普及促進まで手が回らない現状があります。このような市町村の課題解決に寄与するため、総務省の補助金を活用し、離島や商業施設等に出向いて住民のマイナンバーカードの申請をサポートする事業を行っています。事業のチラシを作る際や次年度事業の検討を行う際は、文言や補助金の使途に誤りがないか総務省に確認を行っており、国の補助金を実際に運用する立場を経験できるのも地方赴任の機会がある総務省ならではの魅力かと思えます。

Welcome Message

様々な人との出会い

総務省の魅力は、霞が関や自治体での勤務を通じ、様々な人と共に働くことができることです。特に地方赴任では、霞が関の勤務ではわからなかった現場の実情を知るとともに、現場の課題に寄り添い解決する難しさを痛感しました。課題を解決し地元をより盛り上げていこうと奮闘する市町村職員の姿や、それぞれの市町村に寄り添い支援を行う県庁職員の姿から学ぶものは数えきれないほど多く、様々な人の考えを吸収することで、地方自治をより多面的に考えることができるようになったと感じます。また、様々な場所での勤務を通じ、出会える人が数多くいることで、仕事で困ったときに助け合える仲間が全国にできるというのも総務省の大きな魅力です。

経済安全保障の更なる推進に向けて

What I Do

国家の安全保障に携わる

私は現在、内閣府に出向し、経済安全保障政策に携わっています。国際情勢の複雑化、社会経済構造の変化等により、安全保障の裾野が経済分野に急速に拡大する中、国家・国民の安全を経済面から確保するための取組を強化・推進することが重要です。担当している経済安全保障推進法の基幹インフラ制度では、基幹的なインフラサービスが安定的に提供されることを確保するため、基幹的なインフラ事業を行う事業者が、特定の重要設備について、導入や重要な維持管理等の委託をしようとする際に、事前に国に届出を行い、審査を受けることとされており、この「基幹的なインフラ」には総務省が所管する電気通信・放送・郵便も含まれています。

Welcome Message

次の「当たり前」を目指して

総務省は「国家全体、津々浦々における生活の基盤となる諸制度」を所掌する省庁です。それは、言わば「普段の何気ない日常において『当たり前』に存在しているもの」かもしれません。一方、世界情勢、自然環境や社会の変化を踏まえ、これまでの「当たり前」とらわれず、絶えずより良い「当たり前」に変化していくことが求められます。50年後、100年後の未来における「当たり前」はどうあるべきか、どうあってほしいか。そのためには現在（いま）どう変化すべきか、どのような施策を講じるべきか。そうした観点からは、上記で述べたような経済安全保障政策は重要な転換点の一つかもしれません。皆さんも次の「当たり前」を目指してみませんか。



内閣府政策統括官（経済安全保障担当）付
参事官（特定社会基盤役務担当）付主査
千代田 匠平 CHIYODA SHOHEI
平成31年入省



週末に少し遠出をすることも



デジタル庁統括官付参事官付主査
高橋 一世 TAKAHASHI ISSEI
平成30年入省



デジタル庁名物「芝生」での打合せ風景

多くを経験し、学びを発揮できる場所

What I Do

確実に使いやすいサービスを

私は現在、デジタル社会の推進を担っているデジタル庁という役所に出向しており、行政文書の保存や管理、決裁を効率的に行うためのシステムである「電子決裁システム」の整備や運用を行っています。行政文書の管理は、「公文書等の管理に関する法律」や関連法制度に基づいて実行される必要があります。システムも法制度に準拠した仕様とすることが求められます。法制度が改正された際には、「確実に」ルールを順守できる仕様を、ユーザーの立場からみて「使いやすい」形で導入しなければなりません。このために、事業者や法制度担当者、ユーザーたる行政職員等とのコミュニケーションを重ね、システムのあるべき姿を日々追求しています。

Welcome Message

幅広い成長の可能性

総務省の魅力の1つが、「様々な分野に詳しくなることができる」ことだと思っています。行政評価局調査や行政相談においては、特定の分野に限定せず、世の中のあらゆる行政課題に目を向ける必要があります。自然と視野が広がります。私自身、調査業務も相談対応も経験年数が長いわけではないですが、短期間でも海難事故対策、DV被害者支援措置制度、災害被災者支援制度などなど、幅広い行政課題について考える機会がありました。当然1からの勉強となりますので大変ではあるのですが、様々な施策を知識として吸収する楽しさ、そして相談者や調査関係者に説明し理解を得られた時の達成感は、きっと総務省でしか味わえないのではないかと思います。

国を支える統計をつくる

What I Do

専門的な統計で世界が広がる

農林水産省統計部では、国の農林水産業を取り巻く情勢を捉えるための統計調査を実施しています。私が担当する3つの調査ではそれぞれ、全国の農業用道路の延長距離、愛玩動物看護師を養成する大学等の学生の在籍・就職状況、集落単位でまとって農業を行う集落営農組織の数や活動内容を調査しています。その専門性から一般の方が目にする機会は少ないかもしれませんが、各分野を所管する部局が政策を検討する際の基礎資料として活用されています。元々農林水産業の知識がほとんどなかったため、調査の過程や調査結果から学ぶことが多く、農林水産省ならではの調査を通して未知の世界を知ることを楽しみながら業務に取り組んでいます。

Welcome Message

多岐にわたり活用される統計

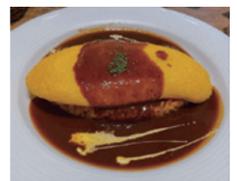
各省庁が所管業務に関する統計調査を行う一方、総務省統計局では雇用・消費・物価等の面から現在の国の情勢を把握するための基礎となる統計を多く作成しています。5年に1度の国勢調査では全国民を対象にしており、調査のスケールの大きさも特徴的だと思います。私が労働力調査を担当していた際は、報道機関をはじめ行政機関や民間企業、学生等一般の方からも調査結果について多くのお問合せをいただきました。お話を伺うと、それぞれが必要とする調査項目や用途は異なり、統計があらゆる分野で多くの方を支えていることを実感しました。だからこそ正確で信頼される統計を届け続けることが求められ、業務の責任の重さとやりがいを感じます。



農林水産省大臣官房統計部経営・構造統計課
岡本 奈々 OKAMOTO NANA
平成31年入省



夏季休暇を利用して海外旅行へ



オムライス巡りが日々の楽しみ



「JENESYS事業」訪日団の学生と

「公務員ぽくないですね」が褒め言葉

What I Do

発見ばかりの中国で

皆さんは中国にどのような印象を持っていますか？私は出張や今回の駐在で、日本のニュースから得られる印象とは異なる現地の人たちの温かさに触れ、印象が変わりました。これは中国の人たちにとっても同様で、相互の理解促進が大切です。私の実体験も踏まえ、日中の訪問団を組織する事業に携わっています。

また、アニメ、書籍、映画、音楽、ゲームなど日本コンテンツ促進・支援も行っています。今中国では、10年以上前の日本アニメが今なお人気関連ショップに行列ができ、日本で数十年前に流行ったCity Popライブに20代の若者が集まるなど、独自の再発見がされています。制約が多く非常に難しい環境でも中国に活路を見いだして進出している日本企業を支援しています。

Welcome Message

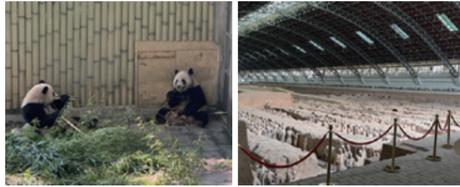
新たな分野へのチャレンジ

私は入省して最初の10年間のうち8年間、総務省の運営に必要な契約、債権管理、財務省への予算要求、出向してデジタル庁新設の予算編成など、一見「国際」と何も関係がないと思われる「会計」に携わってきました。しかし実は「会計」は「国際」にも密接な関係があります。例えば日本コンテンツの促進には現地でのイベント開催による情報発信が不可欠で、イベント経費の予算要求や請負内容を正確に記した仕様書の作成などが求められ、会計で培った経験を活かすことができています。

総務省は、特に幅広い所管を持つ組織の一つです。是非みなさんも総務省で働き、自身の強みだけでなく未知の分野に臆せず果敢にチャレンジしてもらいたいと思います。

外務省在中華人民共和国日本国大使館二等書記官

今宮 拓也 IMAMIYA TAKUYA
平成23年入省



パンダ（@重慶）、兵馬俑などの世界遺産や本場中華料理も魅力

日本の地域と世界をつなぐ

What I Do

自治体の頼れる海外拠点を目指して

自治体国際化協会は、私が勤務するロンドンのほか、ニューヨーク、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京に海外事務所を構え、日本の自治体の海外活動支援や海外事情調査、海外販路拡大支援、多文化共生社会の推進、JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）など様々な事業を展開しています。

ロンドン事務所は英国をはじめ欧州9か国を所管しており、私は主に日英両国の自治体間ネットワークの構築に励んでいます。英国の自治体幹部職員を日本の自治体へ招聘し、視察や意見交換を通じて日本の地域の特長を理解してもらい、その地域の英国におけるプレゼンスの向上や今後の日英相互交流につなげることを目指しています。

Welcome Message

出会いと経験

幅広い分野を所管する総務省だからこそ、様々な人々との出会いがあり、多様な考えや価値観に触れることができます。私自身、入省してから霞が関とロンドンでの勤務のほか宮城県で勤務する機会にも恵まれ、数多くの国内外の同志たちに出会いました。彼らと切磋琢磨しながら日本の地方自治制度のあるべき姿について考えるという経験は、総務省で勤務する大きな魅力の一つだと思います。

子どものころに衰退していく地元を目の当たりにしながら抱いた「地域のために働きたい」という漠然とした思いが、こうした貴重な出会いと経験を通じて得た知識や能力によって少しずつ補強され、私の財産となり、日々の業務に生きています。



自治体国際化協会ロンドン事務所所長補佐
安藤 慎吾 ANDO SHINGO
平成31年入省



イベントで日本の自治体をPR 週末は英国文化に触れています



アジア・太平洋電気通信共同体（APT）
原 翔生 HARA SHOSEI
平成28年入省

アジア・太平洋地域の発展のために

What I Do

国際機関の職員として

私が働いているAPTは、アジア・太平洋地域におけるICTの発展を目的とした地域的な国際機関です。本部はタイ・バンコクに置かれています。赴任前は総務省職員として、日本のICTの発展に資する業務に携わってききましたが、現在は地域全体の発展のため、特にICTの発展が途上にある国・地域に重きを置いた業務を行っています。具体的には、各国からICT関連の支援ニーズを募り、ICT政策の策定支援や、関連法令の現行化・制度整理などを支援するプロジェクトを行っています。

仕事の進め方やコミュニケーションの取り方など、文化の異なる人々と協働する中で難しさを感じることも多く、日々学ぶことばかりですが、プライベート・仕事の両面で、これまでにない貴重な経験を積むことができています。初めての海外赴任および海外生活で不安もありましたが、思い切って挑戦してよかったと感じています。

Welcome Message

好奇心を活かす

ICT分野は、デジタル技術の進展や社会構造の変化に直結する、極めてダイナミックな領域です。通信インフラの整備、ICT政策の企画立案、国際的なルール形成への参画など、業務の一つ一つが社会の将来像に影響を与えます。

私はこれまで、テレビ・ラジオ、船舶、サイバーセキュリティ、経済安全保障といった分野に携わってきました。ひとことでICTといってもその対象は非常に多岐にわたります。ICTはあらゆる分野で不可欠であると同時に、日進月歩の世界です。多くの先輩方も言っていることかもしれませんが、総務省では幅広い分野に携わることができ、かつ新しいことに取り組むことができます。これは

様々な分野に興味を持つ私にとって非常に恵まれた環境だと感じています。

興味・関心の幅が広く、やりたいことを絞り切れないというあなたこそ、総務省はぴったりの職場かもしれません。

とある1週間

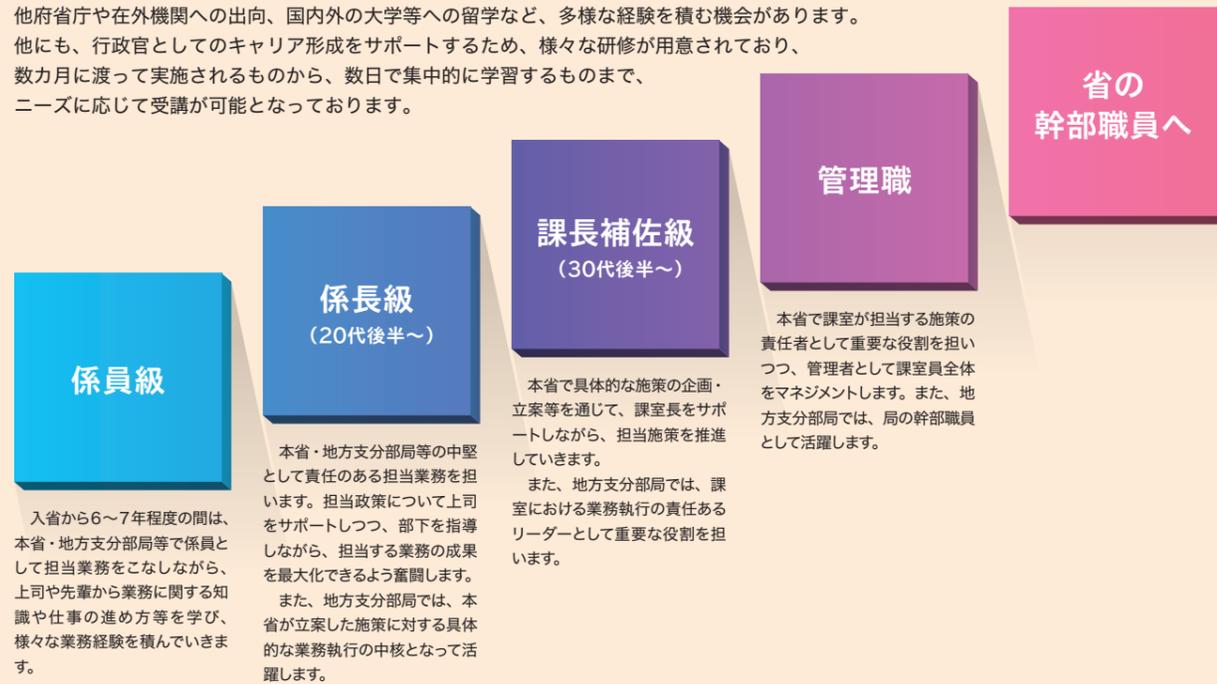
- 月 各加盟国から寄せられた、APTへの支援依頼の内容を確認します。
- 火 APT内部で打ち合わせを行い、実際に支援を行う案件の候補を絞り込みます。
- 水 ICT分野の専門家に対し、候補案件についてプロジェクトの実施が可能か相談します。
- 木 既存プロジェクトの進捗について、専門家および支援対象国とミーティングを行います。
- 金 翌週に予定されている国際会議に向けて、関連資料の最終確認を行います。



APTの同僚たちとランチ会 休日に景色の良い場所へお出かけ

キャリアパス

入省後は、係員・係長・課長補佐などとキャリアを積み重ねながら、主に特定分野の業務（例えば行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信など）を中心に担当します。概ね2～3年に一度人事異動があり、本省以外にも、地方支分部局との人事交流、地方自治体への派遣、他府省庁や在外機関への出向、国内外の大学等への留学など、多様な経験を積む機会があります。他にも、行政官としてのキャリア形成をサポートするため、様々な研修が用意されており、数カ月によって実施されるものから、数日で集中的に学習するものまで、ニーズに応じて受講が可能となっております。



総務省以外での活躍の場

他省庁や地方自治体等への出向

他の政府機関、地方自治体、独立行政法人等への出向を通じて、様々なものの見方や考え方を身につけるとともに、業務の提携・連携を深めます。

留学制度

国内外の大学等で、専門的または国際的な知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究を行います。

在外公館等への出向

世界各地の在外公館や国際機関等に出向して、外交官や国際公務員として活躍しつつ、国際的な視点から、我が国及び総務省の業務を推進します。

研修制度

階層別研修



現在や将来の役職に相応しい知識や技能習得のため、新規採用職員から、係長級、課長補佐級、課長級等、職位に応じた様々な階層別の研修を実施しています。

例えば入省直後に実施される新規採用職員研修では、省内各部署で実際に業務を担う職員から、部署の現状と課題や、所掌する行政分野を取り巻く状況を学ぶとともに、様々な講義を通じて、社会人として働く上で必要となるビジネスマナーや論理的な思考能力を養い、サービスやコンプライアンス、情報公開制度、政策評価等、国家公務員として相応しい知識と教養を身に付けていきます。

専門分野研修



総務省の幅広い行政分野に対応するため、各分野の専門的なスキルを身につけるための研修も豊富に用意されており、職員のニーズにあわせてスキルアップしていくことが可能です。

例えば統計分野では、統計研究研修所を有し、統計の基礎知識から統計理論、統計分析まで幅広い研修課程を設けているほか、情報通信分野では、情報通信政策研究所にて、キャリアパスに応じた総合研修、ICTの基礎知識（無線通信やネットワーク）、地域DX等の特定テーマを学ぶ様々な専門研修を受講することができます。

また、eラーニング等の活用にも取り組んでおり、「学びたい時に」「何度でも」「手軽に」学習できる体制が整備されています。

語学研修



国際舞台で活躍する職員を育成するため、総務省独自に英語等の語学研修（クラス制・集合型）やオンライン英会話（マンツーマン型）等を実施し、語学力の向上を支援しています。外国語を使う業務で円滑なコミュニケーションを図りたい、海外赴任や海外留学に備えて勉強をしたい、国際会議への出席に向けて練習をしたい、将来に向けてスキルアップを図りたい等、様々なニーズを持つ職員が受講しています。



自治税務局固定資産税課課長補佐
渡邊 真奈美
WATANABE MANAMI
平成14年入省

現在の携わっている業務について

自治税務局で、固定資産税の制度運用に関する業務に携わっています。固定資産税は、どの市町村にも広く存在する土地や家屋などに対して課税され、税源の偏在が小さく市町村の基幹税となっています。市町村では、資産価格を評価や申告により決定し、賦課徴収を行います。その制度設計や手続きの電子化などを進めています。

地方自治分野でのやりがいについて

地方自治分野は、地方行財政政、選挙制度、公務員制度、消防など幅広い分野を所管しており、配属先によって様々な課題に向き合い、知識や経験を蓄積していくことで、自分を成長させていける職場だと思います。また、若手の時期や管理職として地方に出向する機会がありますが、地域に住み、自治体職員として働くことで培った現場感覚のもとに、国の立場で全国的な制度設計に携われることは大きなやりがいであると感じています。さらに、自治体からの派遣職員が多いため、霞が関にいながら全国に繋がりを増やしていけるのも魅力の一つです。

CAREER PATH

係員時代

入省後最初の部署で地方公務員の年金制度を担当しました。ちょうど大きな制度改革があった年で、私も法令の改正作業に携わりました。年金関係の条文は非常に難解で、改正案や資料を作成し、法制局に説明するという作業はとにかく大変でしたが、後の公務員生活で役立つ法令の基礎をみっちり学ぶことができました。その後出向した高知県では地域振興を担当し、中山間地域の活性化に向けた住民勉強会に参加するなど、県庁での勤務は地域の実情に触れる得難い経験となりました。仕事以外でも、同僚達と参加したよさこい祭はいい思い出です。



執務室での打合せ風景

係長時代

地方公務員の定員管理を担当した際は、全国の地方公務員数の調査や、適正な定員管理の参考指標を検討する研究会の企画に携わりました。報道発表資料や会議資料を作成する中で、必要な情報を資料に落とし込み、分かりやすく説明する重要性を学びました。固定資産税課で資産価格を評価する基準の改正に携わった際は、市町村からの仕組みが複雑で苦慮しているという現場の声を基に、事務の手間を削減し、評価を簡素化させる基準改正に取り組みました。また、係長時代は2人の子供の育児休業から復帰し、仕事と子育ての両立にも奮闘しました。



子どもが防災見学デーで消防体験

課長補佐時代

埼玉県では会計管理課長として、出納、決算、公金運用などの業務を担当しました。決算では、コロナ禍での様々な施策により県政史上最大の決算規模となった中で、コロナの影響を踏まえた歳入・歳出分析や資料作成にチームで取り組みました。また、県の基金を一括運用する公金運用では、長く続いたマイナス金利時代から、金利ある世界への転換期にあって、安全性と流動性を確保しつつ、長期的に収益性を高めていけるよう、金融の専門家の知見も得ながら預金や債券での運用手法を決めていくなど総務省とは全く違う経験をしました。



埼玉県勤務の最後に大野県知事と



情報流通行政局情報通信政策課
情報通信経済室課長補佐
岩崎 未希子 IWASAKI MIKIKO
平成10年入省

現在の携わっている業務について

国民や企業における通信サービスの利用状況など情報通信分野の統計調査を担当しています。
十分な政策効果を確保するためには、データに基づいた政策立案はなくてはならない視点です。国民や企業の実態を客観的に把握し政策立案や評価に活かすことは重要なサイクルであり、その基盤となるデータの整備や分析を行っています。

情報通信分野でのやりがいについて

情報通信を所管する総務省は、先端分野の技術戦略や研究開発の推進など専門的な分野に関する業務として捉えられがちです。実際は、そのような側面だけでなく、日々進化を続ける情報通信によって日々の暮らしをどう変えていくかというアプローチも重要な視点となっています。
いまや我々の生活に欠かすことのできない通信ネットワーク基盤や、そこで展開される様々なサービスを活用することで、社会や生活の障壁を取り除き、さらに豊かなものにしていくという、まさに国民に寄り添った仕事ができるという点が大きな魅力です。

CAREER PATH



係員時代
最初の配属は地域のICT振興を担当する部署で、沖縄振興をメインに取り組みました。ICTは本土からの距離など沖縄県の地理的制約等を克服するものとして、国や県がその振興に力を入れていました。現地に出向き、自治体職員の方と一緒にすることで地域の課題や携わる方々の熱意を肌で感じることが、社会人としてスタートしたばかりの私にとって多くの学びがありました。
その後、東海総合通信局にも配属され、電波行政や地域振興など地域に密着した業務を通じて、本省とはまた別のアプローチで業務に携わることができたのも貴重な経験です。



愛知県で開催された「愛・地球博」へ

係長時代
高齢者・障害者のICT利活用支援やテレワークの推進、地域情報化の推進など様々な業務を経験しました。障害により情報の取得や意思疎通に障壁があってもICTによりその壁を乗り越えることができます。また、テレワークは、育児真っ最中の私にとっても仕事と家庭を両立する上でなくてはならない手段です。人々の生活がどう変わるのかということを実感しながら取り組むことができました。
係長は担当ラインの中核として実務を進めていきます。様々な業務を通じた知識や経験の蓄積が、その後の業務を行う上での基礎になったと実感しています。



障害者等のWebアクセスに関する講演会

課長補佐時代
2度の産休・育休を経て職場へ本格復帰しました。自分自身も仕事と育児の両立という新たなテーマに向き合いながら、日々の業務に取り組んでいます。
これまでの振興分野からは少し離れ、情報通信分野の調査研究や統計など政策立案の基礎を支える業務や電気通信事業者の紛争解決支援などに携わってきました。また、大臣官房部局での内部事務など組織基盤を支える業務により新たな視点を獲得することができたのも貴重な経験でした。
これまでの知見を自らの基礎力としつつ、新たな業務への取組により、まだまだ日々の成長を目指しています。



統計局統計調査部国勢統計課
統計専門官
黒川 直紀 KUROKAWA NAOKI
平成19年入省

現在の携わっている業務について

国勢調査の企画業務を担当しております。国勢調査は5年に1度の調査であり、直近は令和7年に実施しました。国勢調査は日本に住んでいる全ての人と世帯を対象とする調査であるため、調査実施年はもちろんのこと、その数年前から調査方法の検討や調査書類の作成、実務を担当する地方公共団体との調整などを行っております。

統計分野でのやりがいについて

統計業務は、公務の中でも目的や目標が明確な仕事であると思います。円滑な調査を実施するにはどうすればよいかなど、地方公共団体を始め統計の業務に携わる人達と意見を交換しながら、業務を進めていくことにやりがいを感じております。
また、現在、担当している国勢調査は全ての人と世帯を対象とする調査ですので、何気ない日常の中ですれ違う全ての人々に、自分たちが作成した調査書類が配布されます。そう思うとなかなか感慨深いものがあります。もちろん自分自身にも配布されます。そしてそれに回答するのはどこか不思議な気分です。

CAREER PATH



係員時代
入省後、最初に配属されたのは、現在と同様の国勢調査担当でした。その後いくつかの部署を経験し、統計の文書審査を行う部署に配属になりました。
統計調査の結果は、国や地方公共団体で子育て支援や防災対策など幅広い分野で基礎資料として、また、企業や大学での研究にも活用されるため、各調査担当の確認に加えてダブルチェックを行っていました。当時の部署での確認を終えたものが世の中に公表されるため、係員ながら緊張感をもって業務に取り組んでおりました。

係長時代
係長になって最初に配属されたのは総務省ではなく、財務省財務総合政策研究所というところでした。財務省と聞くと各省庁の予算業務のイメージがありますが、実は財務省でも統計を作成しているのです。
そこでは、景気を予測する調査を実施しておりました。3か月に一度、企業に国内の景気状況や自社の景気状況を調査するというものでした。企業が現在の景気についてどう考えているかを把握することができ、非常に有意義なものでした。また、初めての出向で他省庁の職員とも触れ合うことができ大変貴重な経験をしました。

課長補佐時代
課長補佐クラスになって最初に配属されたのは、現職でもある国勢調査の担当です。調査実施前は調査を円滑に実施するため、試験調査と言っていわゆるシミュレーション的な調査を3回ほど実施します。そこで、試行錯誤しながら調査方法を検討します。その際、実務を担当する地方公共団体と何度も意見交換をして、最適な調査方法を決定しました。
また、令和7年の調査では、調査を装った不審メールが話題になり、マスコミ等から多くの問合せを頂き、テレビ等でも特集が組まれたほどでした。やはり非常に影響力があると実感しました。



調査の企画内容について部下と意見交換

働き方改革・WLBの推進

多様な働き方で、仕事と家庭が両立できる職場に

1 フレックスタイム制・早出遅出勤務

職員の事情に応じて活用できるフレックスタイム制、早出遅出勤務等の両立支援制度を活用した働く時間の柔軟化を促進することで、仕事と生活を両立しながら活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

2 テレワークの推進

総務省はテレワークの推進官庁でもあり、全職員がテレワークできる環境を整え、推進しています。テレワーク勤務の質の向上を図ることにより、テレワーク勤務を日常の働き方として、更に定着させることを目指しており、ペーパーレス化の更なる推進や、打ち合わせや会議のオンライン化など、業務の仕方そのものの見直しにも取り組んでいます。

3 総務省 コミュニケーションポリシー

多様な背景を持つ職員間のコミュニケーションを活性化し、仕事のパフォーマンスを向上する観点から「コミュニケーションポリシー」を策定し、職員同士が気軽に情報発信でき、お互いの状況や時間を尊重したコミュニケーションを実現できる環境の整備を進めています。



4 オフィス改革

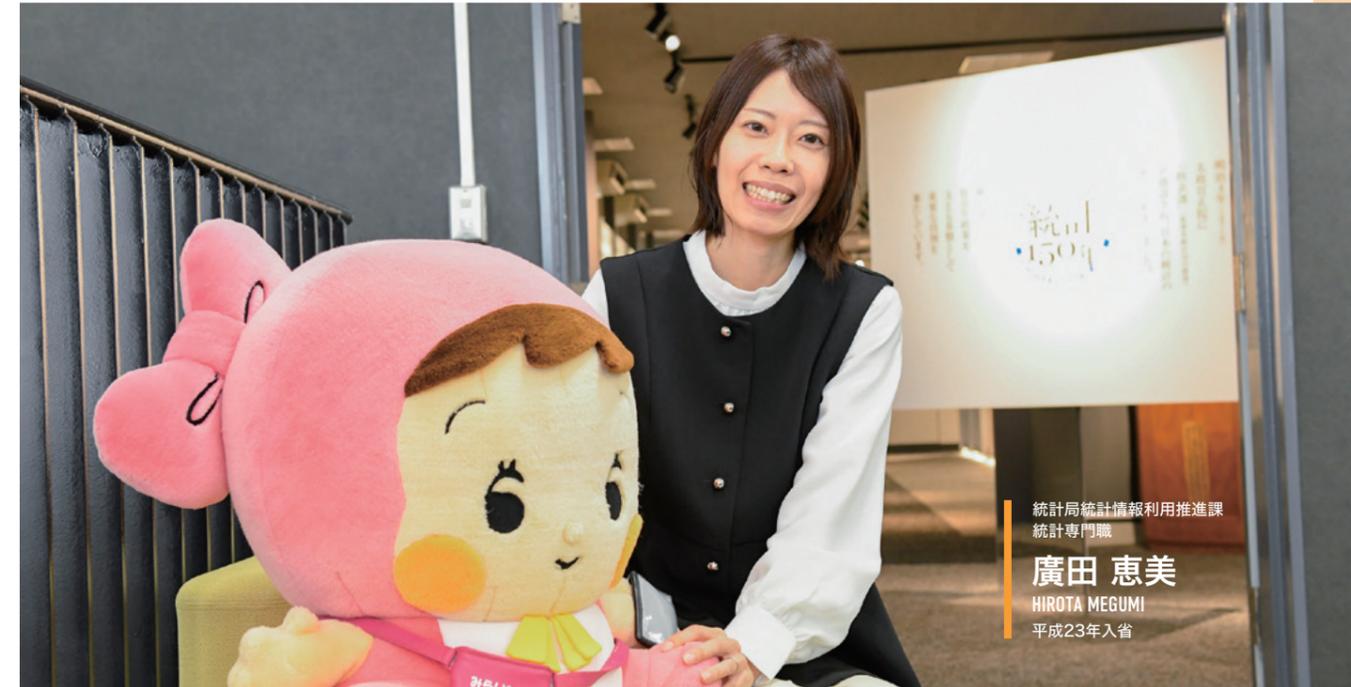
総務省では職員がより付加価値の高い業務に従事できるよう、環境作りの一つとして場所に縛られないオフィス改革を提案、自ら実践しています。



5 子育て支援

職員の希望や育児の事情等に応じて様々な両立制度を利用することができます。

- まとまった期間の休業や、日・時間単位での休暇 例…育児休業、子の看護等休暇
- 勤務時間を短くする制度 例…育児時間、保育時間
- 勤務の時間帯を変更する制度 例…フレックスタイム制
- 深夜勤務・超過勤務の制限等 例…超過勤務の免除



統計局統計情報利用推進課
統計専門職
廣田 恵美
HIROTA MEGUMI
平成23年入省

子育ても仕事も自分らしく

私は2人の娘を育てながら働く母です。育児時間の取得や休憩時間の短縮によって勤務時間を短くし、週の半分はテレワークを活用することで、騒がしくも愛おしい子ども達と過ごす時間を確保しています。

そのため、チームの皆さんに申し訳なさを感じることもありますが、ありがたいことに「今は子ども達を優先して」と周囲から背中を押していただくことが多く、温かい環境に日々感謝しています。だからこそチームに貢献したいという気持ちも自然と強くなり、限られた時間の中で自分にできる貢献の形は何かを考えながら働いています。

育児に限らず、介護や通院、プライベートの充実など、人それぞれに叶えたいワークライフバランスがあると思います。総務省は、互いの事情、希望を尊重し合い、チームで乗り越えていこうとする姿勢を大切にしている、そんな職場だと感じています。



一日のタイムスケジュール

8:20 保育園への送迎

朝は時間との勝負ですが、テレワークの日は時間にも心にも余裕ができます。寝ぼけ眼の上の子を急かしながら小学校へ送り出した後、下の子のイヤイヤスイッチを押さないように気を付けながら支度をし、保育園に向かいます。



14:00 チャットで相談・報告

チャット・WEB会議を積極的に活用して、日々、相談や報告をこまめに行っています。テレワーク勤務者が多いチームですが、コミュニケーションを取りながら、連携して業務にあたっています。

17:00 子ども達との時間

保育園や習い事のお迎え、宿題の丸付け、夜ご飯の準備などタスクも多いですが、子ども達が寝るまでは子ども達の時間、一緒に笑ってゆったり過ごすことを大切にしています。そのためにも家事は基本手抜きです！

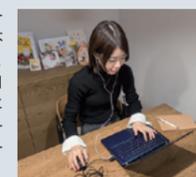


9:00 始業

係の皆さんにチャットから朝のご挨拶をした後、メールやチャットのやりとりを確認します。業務の進捗や課題、同僚の負荷を把握し、今日1日どのように業務を進めるかをイメージしてから取りかかります。

11:00 ミーティング

週1回のチームミーティングの日は基本登庁していますが、子どもが早帰りの日などはテレワークにさせてもらい、ミーティングにはリモートで参加します。



15:30 終業

今は育児時間を2時間取得し、早く終業させてもらっています。テレワークの日は、小学生の娘が「ママ、ただいまー！」と笑顔で帰ってくる姿を見られ、とても嬉しいです。



22:00 自分時間

子ども達を寝かしつけた後、寝落ちせずに帰還できたら自分時間です。保育園の準備や片付けなどを済ませてほっと一息つく、誰にも邪魔されない貴重な時間です。

採用関連Q&A

Q1 総務省ではどのような人材を求めていますか？

総務省は、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信といった非常に幅広い分野を所管しており、それに対する課題は日々変化しています。こうした状況においても、様々な業務や社会経済情勢の急速な変化に柔軟に対応し、仲間と協力して何事にも前向きに「チャレンジ」できる方を歓迎しています。

Q2 官庁訪問はどのように進むのですか？

官庁訪問を行う前に、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信の中から希望する分野を選択していただきます。その希望をもとに、現在その分野で働いている職員を中心に面接を行います。官庁訪問を通じて、ぜひ政策の最前線を体感してください。

Q3 公務員試験の順位や年齢は採用に影響しますか？

公務員試験の点数や順位、年齢は全く関係ありません。総務省では「人物本位」での採用を行っています。官庁訪問では、ぜひ皆さん自身の魅力や熱意を存分にアピールしてください。

Q4 統計や情報通信の専門知識や語学のスキルは必要ですか？

入省時に特別な知識は必要ありません。総務省では所管分野と関係のない学問を専攻していた方も多く採用されており、出身学部にかかわらず多様なフィールドで活躍しています。また、業務に必要な専門知識や語学については、充実した研修制度が整っています。仕事を進めるなかで、実践的で活きた知識を身につけていくことが大切だと考えています。

Q5 人事異動について自分の希望は反映されますか？

毎年、今後のキャリアプランについて自身の希望を伝える制度があります。その希望を考慮しつつ、個々の適性を踏まえて配属や異動を決定しています。

Q6 説明会は参加した方がいいですか？

説明会への参加有無は、採用選考において影響しません。しかし、実際に総務省で働く職員の雰囲気を直接感じられる貴重な機会ですので、ぜひ参加されることをおすすめします。

説明会のご案内

総務省では、国家公務員を目指す方に向けて業務理解を深めていただくため、様々な説明会を開催しています。説明会の最新情報は、総務省の一般職採用ページをご覧ください。



過去の採用状況

		令和7年度	令和6年度	令和5年度	
一般職事務系・技術系（大卒程度）	本省採用者	50 (25)	51 (18)	68 (28)	
	地方支分部局採用者	管区行政評価局 行政評価支局 行政評価事務所	29 (11)	28 (13)	28 (15)
		総合通信局 総合通信事務所	47 (24)	48 (24)	53 (24)
一般職事務系（高卒程度）	本省採用者	6 (2)	7 (5)	11 (4)	
女性の割合		47%	45%	44%	

※1：カッコ内の数字は女性の内訳。 ※2：各年度試験には10月等に採用された人も含む。



採用担当からのメッセージ

みなさんは、「総務省」と聞いて何を思い浮かべますか？

このパンフレットをご一読いただいでわかるように、総務省は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治や消防・救急行政、情報通信技術（ICT）を活用した成長戦略の実現と幅広い分野を担っており、この総合性を活かしながら、国民生活がより快適になるよう取り組んでいます。

しかし、これらは一朝一夕に実現するものではありません。

複雑化する社会課題に併せ、国民が求める“快適な暮らし”は、刻々と変化していきます。

だからこそ、多種多様な価値観を持った人たちが、常にアクティブな行動力を持ち、国民目線で課題を捉え、暮らしの在り方を考える必要があります。

みなさんが思い描く“快適な暮らし”とは何ですか？

総務省と一緒に考え、実現していきましょう。

みなさんの来省を心よりお待ちしております。

総務省採用チーム